

第73号
 発行日: 令和5年10月1日
 発行所: 東京青山同窓会事務局
 〒111-0032
 東京都台東区浅草 3-8-2-1101
 工藤 義夫 (74回)
 e-mail: info@tokyo-aoyama.org
 TEL: 090-1704-2413
 HP: https://www.tokyo-aoyama.org/
 発行者 日下部朋子 (82回)

東京会報

東京青山同窓会
 -東京青山同窓会年間維持費-
 1口1,000円/2口以上(年間)
 会計幹事: 高山佳郎 (83回)
 振込先: 極力①をお願いします。
 ①郵便振込口座 00150-9-4074
 加入者名 東京青山同窓会
 ②三井住友銀行京橋支店 普 8430640
 東京青山同窓会 会計幹事 川上康夫

4年振り復活 ～「2023.7.8 東京総会 & 新人(128～131期)歓迎会」開催 記・事務局 工藤義夫(74期)

集合写真～全91名

レストラン「アラスカ」日本プレセンター店～日比谷街



新人たちと 東京青山会長(現・前) ～ 先生方



今回の総会主催者: 90期生 計12名

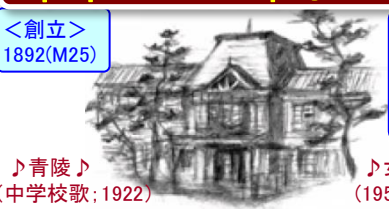


<会計担当: 高山佳郎(83期)> 年会費2千円の納付先
 ①郵貯銀行 ; 00150-9-4074 または
 ②三井住友銀行京橋支店・普通 8430640

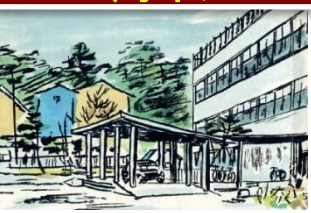
問合

<事務担当> ～ よろずご連絡など～
 事務局長 ; 工藤義夫(74期) 090-1704-2413
 info@tokyo-aoyama.org / plutarchoshannibal@yahoo.co.jp

本年・2023年は <母校創立131周年> … 三世紀に亘って!



1954(S29)焼失
 ↓ 同年
 青山同窓会発足
 ↓<1～4期工事>
 1960(S35)完工
 ♪女子入学♪ (1950年; 61期・数名)



<現校舎> 1999年～ (平成11)
 男女比: 半々 全県一区



4年振り復活 ～「2023.7.8 東京総会 & 新人(128～131期) 歓迎会」開催

記・事務局 工藤義夫(74期)

令和元年の総会以降、地球規模のコロナ禍で4年が過ぎた。自粛・リモート・マスク越しのパンデミックの世界。その間、1年遅れ観客ゼロの東京五輪。ウクライナ侵攻500日も終末なし。世界は温暖化から沸騰化へ。

4年前の新人はもう大学4年生。いけない！今年やらねば！コロナ推移を見つつ、今回主催90期有志と相談し2月に開催決断、会場予約、準備開始。何とか7月開催にこぎつけ正直安堵した。

リアルの会はやっぱり楽しいものだ。それぞれがマスクなしで生の声を交わし、思い切り「ますらお」も歌え格別だ。なお今回から、従来の金曜夜ではなく、土曜の昼に変えてみたがどうだろうか。うるし時刻を気にせず、総会は前半2時間とし、残る1時間は世代を越えてお喋りしたり、飛び入りで各世代がアトラクションで盛り上げたりと、いろんな世代での交流もできたようだ。

総会では、佐藤信秋東京会長挨拶と、事務報告(会務・工藤義夫、前会計・川上康夫)。新潟からは敦井榮一青山同窓会長の去年の130周年記念のご挨拶、続いて小川正樹学校長が母校音信を話された。旧3年担任の3先生も同席された。

12時過ぎ、ウェルカムドリンクで少し喉の渇きを潤した後、冒頭イベント「いまいあい」さん(105期)のソプラノの調べが心地よい。♪乾杯の歌♪をはじめ♪オーソレモ♪に至るまで会場に響き渡った。

さあ、続いては、お待ちかねのランチタイム、飲み物は各種飲み放題。レストランの美味しい洋食ではある。

1時から、新人歓迎会だ。4年間のプランクにより、新人は128～131期の4期生分。参加数はやや少ないが13人の各期精鋭が出席してくれた。ひとりひとり紹介後、代表の各幹事が返礼をした。

学生諸君の返礼は例年同様、当日の指名ではあるが皆堂々と挨拶していた。

ここで、新人たちの記念撮影ならびに全参加者の集合写真を撮った。2時間の総会終了前の撮影が最も集まりやすい。

暫く各テーブルなどで自由懇親の後、2時間の総会終了前には、恒例の校歌斉唱と応援歌合唱だ。主催90期の渡辺正明応援団長が壇上で指揮をとり、皆で声を合わせた。こうして前半の総会を終えた。その後の1時間は、フリーアトラクションや壇上での自由な挨拶も交え、自由な交流時間とした。

今回から、担当主催の90期有志12名が受付や司会その他全般を見事に対応してくれた。来年は94期等の世代が担当予定で、順次繰り下げ主催側も経験しつつ、徐々に壮青年世代にシフトした集まりに。今回は91人の青山の“地上の星”たちが集いました。来年は6月29日(土)昼、お会い致したく。

東京青山同窓会 2023年度 総会/新人歓迎会 (新人:128～131 回生)

令和5年7月8日(土) 昼～
【1, 2次会兼用: プログラム】

第1部「総会」 11:50～12:40

11:50 1)挨拶 ◎東京青山同窓会長 佐藤信秋 (74回)
11:52 2)議題 会務報告 事務局長 工藤義夫 (74回)
会計報告 (前年度)会計幹事 川上康夫 (79回)
新会計幹事 高山佳郎 (83回)

11:54 3)来賓紹介 ご挨拶 ◎青山同窓会会長 敦井榮一様 (69回)
副会長 吉田至夫様 (79回)

新潟高校学校長 小川正樹 様
旧3年 担任 荒木美恵子先生 (92回)
旧8年 担任 渡辺聖史先生 (107回)

11:56 4)母校音信 ◎新潟高校学校長 小川正樹 様

【12:00～ウェルカムドリンク、飲物可】

12:02 【ミニコンサート】: 売バリの歌謡(特別出演)いまいあい 様(105期)
～12:10 ♪ コロナカラー・ソプラノの調べ ♪ 和洋の曲目から3曲ほど♪

12:10～12:40 乾杯&ランチ&懇親 ～乾杯発声 渡辺千里 様(61回)

第2部「新人歓迎会」 12:40～

12:40 司会 斎藤彰, 他, 90期 (90回)
12:45 野上ユール 学年幹事
12:45 返礼の辞 新人代表: (128～131回)

◆13:00～13:05 記念写真撮影…「全員集合」と「新人生」など

第3部「懇親会」継続 13:05～

司会: 斎藤彰, 他, 90期 (90回)
…ドリンク2時間半フリー12:00～14:30(各自バーカウンターで受領)…
～懇親～ ※…会場案内

(アトラクション)

13:50～ ◆抽籤式(新・旧) 学年幹事
◆応援歌合唱 学年幹事 (90回)
14:00 ◆閉会の辞 幹事長・日下部朋子(82回) & 一本締 副会長・大滝均(74回)
※以降、継続二次会… 退場は各自自由

14:05～15:00 ～ 継続二次会 ～ 14:30までフリードリンク。以降、各自で、
～15:30 までに出発… 他での三次会は、予定なし(各自ご自由)

実行 & 会計: 90期生・主体… および 会計幹事・事務局

※来2024年「総会兼132期新人歓迎会」のお知らせ
令和6年6月29日(土)昼～予定… 場所・時間は同じ



◆2023.7.8 東京青山同窓会総会 & 新人歓迎会◆ 参加<来出席> 91名 > 7.8実績 敬務略											
名	氏	名	氏	名	氏	名	氏	名	氏	名	氏
第62回	渡辺千里	第61回	成海孝二	第60回	瀬川久孝	第100回	小林一大	第128回	知田剛代		
第64回	星 清	第63回	山田 豊	第62回	森 義	第101回	折笠智則	第129回	山田 豊也		
第67回	鎌倉政行	第62回	◎ 日下部朋子	第60回	渡辺修也	第101回	後藤 卓	第130回	田村 旭		
第70回	猪口 孝	第62回	◎ 西山浩子	第60回	勝山達志	第101回	星野智則	第131回	◎ 赤石直穂子		
第70回	渡辺允雄	第63回	高山佳郎	第60回	白川 裕	第102回	園谷直也	第131回	小林 才		
第71回	堀 清志	第64回	飯塚雅士	第60回	斎藤 彰	第104回	佐藤 亮	第131回	小松 才		
第74回	坂井 靖	第64回	田嶋正巳	第60回	坪井俊樹	第105回	◎ 今井あ	第131回	勝又心悟		
第74回	大滝 均	第64回	星野部夫	第60回	星野部夫	第105回	成澤 良	第131回	鈴木智大		
第74回	佐藤義夫	第64回	野口俊介	第60回	木村和人	第106回	古俣 太	第131回	高橋 康		
第74回	工藤義夫	第64回	渡辺 裕	第60回	渡辺正明	第106回	三田和弘	第131回	渡邊 誠人		
第74回	渡部義五	第64回	星野朝美	第60回	◎ 網島知子	第119回	小早洋輔				
第75回	白鳥十三	第64回	鳥津 孝	第60回	◎ 山内 寛	第118回	◎ 山本直子				
第75回	◎ 有原朋子	第64回	鈴木正立	第60回	原 茂雄	第119回	堀 孝哉				
第76回	長北 学	第64回	吉井正行	第60回	伊藤 剛	第121回	◎ 堀本水帆				
第76回	田中阿重	第66回	山内豊明	第63回	土屋藤彦						
第76回	八田進二	第68回	小竹 聡	第64回	藤沢純司						
第77回	渡部 亮	第68回	◎ 今井博一	第64回	藤原直哉						
第79回	冨山浩司	第69回	星井利壽	第64回	◎ 野崎雅重						
第79回	川上康夫	第69回	◎ 岩野浩子	第64回	◎ 渡辺浩子						
第80回	小林亮介	第69回	山田敬昭	第68回	坂井敬樹	第128回	◎ 夏島香子				

【青山同窓会・来賓】

◎ 山本直子 副会長 敦井榮一・78

◎ 堀本水帆 副会長 吉田至夫・79

【新潟高校・来賓】

◎ 小川正樹 学校長 小川正樹

◎ 荒木美恵子 旧3年 担任 荒木美恵子

◎ 渡辺聖史 旧8年 担任 渡辺聖史・92

◎ 近藤善博 旧93年 担任 近藤善博・92

◎ 渡辺聖史 旧93年 担任 渡辺聖史・107

【東京青山同窓会・来賓】

◎ 斎藤彰 幹事長 斎藤彰

◎ 工藤義夫 事務局長 工藤義夫

◎ 川上康夫 前会計幹事 川上康夫

◎ 高山佳郎 新会計幹事 高山佳郎

2023年度 再開へ～偶数月第2火曜会／ますらお会／忘・新年会など (事務局)

東京会長挨拶 佐藤信秋(74期)



この夏は暑い日が続きましたが皆様お元気で
お過ごしのことと存じます。さて先日、7月8日に、
東京青山同窓会が開かれました。久しぶりに皆
様の元気なお顔を見ることができて、何よりでした。私は安倍元
総理の法要出席の為、途中で失礼しましたが、大いに盛り上
がって頂いたのは嬉しいことでした。

ところで、長岡の花火と柏崎の海中花火を先頭に、新潟各地の
花火大会は大変な見物ですね。これまでの2～3年がコロナ禍で
少し控え目でしたが、この夏は大変な盛況で、知事の仰る“住ん
でよし、訪れてよし”の新潟が躍動し始めましたね。しかし、この
原稿を書いている時点(8月下旬)では、今年は大雨被害こそ出
ていないものの、渇水で農作物は困っています。やはり、豪雨に
も、渇水にも耐えられるような強く韌やかなふる里、新潟を造り、
多くの人々に、ターン、リターンしてもらえようようにしたいものです
ね。会員の皆様の一層のご健勝、ご活躍を祈念しております。

青山
2023年は 創立
131年
青陵

《各種行事予定》 メール配信

◆カジュアル「ますらお会」 毎年秋
11月11日(土) 夕方

◆「偶数月～第2火曜の会」
10月10日(火) 夕方
12月12日(火) 夕方 兼・忘年会
2024年2月13日(火) 夕方 兼・新年会



《ますらお会》 第1～4回(2019)～コロナ中断～

第1回；2016



第2回；2017



“平成ラスト”のますらお会 第3回；2018



第4回；2019



<ますらお会>
番屋・有楽町店
2019.11.30(土)
別会議室

東京青山～行事日 2023.4-2024.3 CALENDAR

2023 10 October							2023 11 November							2023 12 December						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					29	30	31					29	30	31				

2024 1 January							2024 2 February							2024 3 March						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6		1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					29	30	31					29	30	31				

《偶数月・第2火曜の会》
2019年～コロナ中断～再開・2023.6



2023. 6. 13



2020. 2

《忘年会》 2018年12月



工藤義夫/74 佐藤 茂/77 勝山達志/90 森 豊/90 佐藤 晃/104 宮本真理子/120
星野紹英/84 成海幸二/81 古川明久/100 敦井榮一/69 坂井 靖/74 池 一/74 谷中健治/74
(青山同窓会長)

“新人(131期)”寄稿 ~よろしくお願ひします~

<各組・幹事9名・他>



<佐藤 優凜~1組クラス幹事>

第131期1組クラス幹事の佐藤優凜です。早稲田大学文化構想学部の佐藤優凜です。高校時代はバレーボール部に所属しており、現在はバレーボールと軽音のサークルに入っています。高校三年生では体育費で連合創造のチーフをやったりなど、高校生活を勉強も部活も活もとても楽しんでいました。大学生になった今あたらしい挑戦をしようとしてベースの練習に励んでいます。勉強の面でも、美術に通ずるイタリア語を勉強しています。楽器を弾くこと絵を描くことが昔から好きなので、大学に入って大好きなことをとどどんと極めたいです！よろしくお願ひします。

<谷口 麗奈~2組クラス幹事>

131期2組クラス幹事の谷口麗奈です。不安でいっぱいだった大学生活も、始まってから早くも4ヶ月が経ちました。まだまだ慣れないことも多いですが、ずと憧れていた大学で日々勉強できている喜びを噛み締めています。私は今、早稲田大学の文化構想学部に在籍しています。歴史系、メディア系、国際系など、本当に幅広く学ぶことの出来る学部です。1年生の今は様々な分野の講義を受けて、自分の追究したいテーマを探しています。もともと国際的な学問に興味があったので、それを深められる授業を受けることができると嬉しいです。学校に通い、課題もこなしアルバイトもして、家事も全て1人ですというのは想像以上に大変で、いつも助けられていた親に改めて感謝しました。また、自分と同じように新潟高校から東京に進学した仲間の助けもとてもありがたかったです。高校時代の思い出話をしたり、一緒にご飯を食べたりすることがとても心の支えになっていました。こんなにもいい仲間恵まれて、本当に幸せだと感じています。まだまだ始まったばかりの大学生活、恐れず新しいことにとどどんと挑戦して、充実したものにしていきたいと思ひます。

<吉澤 琉 ~3組クラス幹事>

第131期3組クラス幹事を務めることとなりました、吉澤琉です。現在、明治大学法学部に在籍しています。大学では学部名の通り法学を主に勉強しています。高校時代から学びたいと強く望んでいた分野であるため意欲的に学習することができています。しかし、法学という学問においてなれないことも多かつますことも多いですが、新潟高校で学んだことを思い出しながらなんとか頑張っています。高校時代はバドミントン部に所属しており、厳しいながらも愛のある指導を受けてくださった顧問の先生方、個性豊かな部員たちと過ごした時間を忘れることはできません。部活で培った忍耐力や本当の意味での「楽しさ」は大学に入學した後も大いに私の助けになってくれています。最後になりましたが、青山同窓会の一員にされたことを大変光栄に思ひます。至らぬことも多いかと思ひますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。

<長谷川心優~4組クラス幹事>

第131期4組クラス幹事の長谷川心優です。春から東京理科大学先進工学部に進学し、日々、勉学や部活動、アルバイトなどに励んでいます。高校時代は3年間フencing部に所属しており、自身の目標に向けて努力をしました。この経験が今の忙しい大学生活を過ごす上でも良い糧となっていると感じています。また、私達131期生は高校入学当初から新型コロナウイルスの流行によって修学旅行が無くなったりと満足な学生生活を送れなかった代でもあります。しかし、そんな中でも皆が全力を出し切った高校3年生の時の青陵祭は完成度も高く、迫力のある体育祭となり今でも忘れられない大切な思い出です。また、現在コロナウイルスの影響も以前よりは薄れて、この数年間行えなかったことも出来るようになり活動の幅が広がっています。そのため今後短い大学生活の中で様々なことに挑戦できることがとても楽しみです。また、新潟高校の同窓会の一員にされたことを誇りに持ち、同窓会の先輩方のように社会に貢献できるよう日々精進します。どうぞよろしくお願ひ致します。

<勝又 心裕 ~5組クラス幹事>

第131期5組クラス幹事の東京工業大学、工學院の勝又心裕です。高校時代は皆様と同じく、学業や部活動に熱心に取り組まれました。私はバドミントン部、生徒会執行部、軽音有志に所属し、生徒会執行部では情報委員として、デジタル化を進めました。大学では、様々なことに挑戦しています。教養科目を中心に勉強しながら、クラシックとジャズのサークル活動にも積極的に参加し、学生生活を充実させています。将来の目標は、研究者として新たな会話型AIを作ることです。確率的に単語を選ぶだけでなく会話の内容を理解した上で返答を作るものです。そのために大学で学ば専門分野にも力を入れ、新しい発見や技術開発に貢献できるように努めます。現在の状況や学び、またOB会での交流を通じて、皆様より一層のつながりを築くことができますよう願ひしております。



<小林 才 ~6組クラス幹事>

131期6組クラス幹事の小林才です。高校時代は野球部に所属し、副部長を務めていました。ともに全力で部活動に取り組んだ新潟高校野球部の仲間達とは、それぞれ大学に入學した後もしばしば交流しており、私にとって最高の友です。慶応義塾大学商学部に在籍し、サークル活動で大好きな野球を続けています。大学では会計学を中心に学び、将来は会計士になって新潟で働きたいと考えています。4年後新潟でお世話になった方々に成長した姿を見せられるよう、素晴らしい環境で学べることに感謝しながら、充実した大学生活を過ごしていきたいと思ひます。新潟を離れて数ヶ月が経ちましたが、人の多さと電車の路線の複雑さにはまだ慣れません。しかし私は、胸を張って東京青山同窓会の一員として活動するために、早急に都会の環境に適応してゆく所存です。東京青山同窓会の先輩方、都会に染まる方法を教えてくださいますと幸いです。



<鳥谷 麻子 ~7組クラス幹事>

第131期7組クラス幹事の鳥谷麻子です。新潟高校で過ごした時間はとても充実し、成長できた3年間でした。部活動はバドミントン部に所属し、お互いに高め合える素敵な仲間に出会い、楽しい思い出をたくさんつくることができました。先生方、OBの方々、先輩方から多くのことを学ぶことができ、大変感謝しています。今春からは、千葉大学教育学部に在籍し、教養科目に加え、将来教員になるための資力・能力を向上させる専門的な授業も始まりました。以前から学びたいと思っていた学問分野に触れることができて嬉しく思っています。4月からの一人暮らしにも少しずつ慣れ、サークル活動やアルバイトなど充実した日々を送っています。これから周りにへの感謝を忘れず、様々なことに挑戦し精進して参ります。至らぬ点も多いとは思ひますが、どうぞよろしくお願ひ致します。

<鈴木 智大~8組クラス幹事>

第131期8組クラス幹事の鈴木智大です。現在は東京大学理科一類に在籍しています。高校入学と同時に流行し始め、高校生活では大きな影響を受けた新型コロナウイルスによる制限も現在は緩和され、文字通りの「キャンパスライフ」を送り始めました。大学生活では、高校時代から興味を持っていた分野について講義を受ける中で、高校時代には想像だにしていなかった学部・学科への進学を考へるようになるなど、多様な人との関わりの中で刺激を受け、有意義な日々を過ごしています。当初は慣れないことも多かった東京という地での一人暮らしも、およそ半年を経た今では徐々に慣れてきたと感じています。今後とも自分の興味や関心を大切に、周囲の環境を最大限に生かしながら成長していきたいと思ひます。最後になりましたが、青山同窓会の一員となることで光栄に思ひます。至らぬ点も多いかと思ひますが、どうぞよろしくお願ひいたします。



<高橋 駿 ~8組・有志>

東大理科一類所属、第131期8組の高橋駿です。高校では地学部であり、天体観測で観た土星とその環は今でも高校生活の燦然たる思い出の一片です。その経験を受けて大学でも天文部に入ろうと当初は考えていたのですが、理科類で理系科目を多く履修するのだからサークルは文系にしようと思ひ、今は文学部の一員です。小説も書きますが私が目下取り組んでいるのは漢詩。今は基礎から勉強の真つ最中です。高校では押韻と対句程度しか習わなかったものがいざ詠もうとすると存外規則が多く苦戦しております。しかしその分楽しさも増すというもので時間を掛けられる大学の長い夏季休暇が大変嬉しいです。さて東大の授業は随分と難しく、殊に線形代数学と力学は「原理を理解せず」に問題を解くという嫌な状態に陥ってしまいました。これからの付き合いは秋学期以降も続くことが決まっているので、大学が再開する前に復習と演習を重ねて理解を終えておこうと思ひます。「真理追究」掲げる新潟高校の卒業生として、大学に於いても広範深遠な学びを意識し精進していく所存です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



<加藤 春香~9組クラス幹事>

第131期9組クラス幹事の加藤春香です。新潟県地域枠で北里大学に入學しました。新潟県地域枠は、医師の少ない新潟県の将来に一石を投じるために設けられ、卒業後は一定期間新潟県内で働くこととなります。新潟県の地域医療に携わり、患者さんのニーズに沿った医療を提供できる医師になれるよう日々勉強に励んでいます。高校時代の思い出は「究極の文武両道」と「丈夫魂」の新潟高校野球部で素敵な仲間と出会えたことです。高校3年生の夏の県大会で日本文理高校相手に結果惜敗したものの、選手たちがベンチ内で満面の笑みで試合に臨んでいる姿がとても鮮明に蘇ります。また同大会の開会式で、私は司会進行の役目をいたしました。自分のアナウンスとトランペットの音が響くファンファーレによって開会式が始まった瞬間、涙が出そうになるくらい感動を覚え、鳥肌が立ちました。コロナ禍を経験したからこそ、何気なく行われていたことへの感謝の気持ちや感動に敏感になった気がします。新潟高校での3年間は毎日が宝物です。



<赤石 恵理子 ~9組 有志>

日本大学生物資源科学部獣医学科1年の赤石恵理子です。高校時代は生物部部長でした。新潟の地を離れ、不安と期待に溢れた神奈川での新生活がスタートしてから早5ヶ月。大学生としての日常は新しい発見や出逢いで溢れ毎日が宝物のような日々です。幼い頃から好奇心旺盛で、なんでも前向きに物事を捉えながら楽しむのが得意です。高校生活では思うようにいかなかった人生のどん底も必死に這い上がる時期もありましたが、自分の壁を幾つも乗り越え大学で獣医学を学んでいるのは、間違いなく高校時代に一緒に過ごした仲間・先生方がいたからです。授業でわからないことを教えてくれたり、親身に相談のってくれたりなど、優しいみんなに囲まれて心から新潟高校理数科のクラスにこれだけ良かったと改めて感じます。



大学では人との出逢いは予測不可能で、思いがけない行動が新しい幸せを引き寄せてくれると感じる機会が増えました。これまで出逢った全ての方々、私を生かしてくれ自然・動物たち、私を産んでくれた両親を始め、全てのものに対する感謝を忘れず、1日1日少しずつ成長しながら将来少しでも多くの人や動物に、幸せを届ける存在になりたいです。



◆東京青山同窓会総会 & 新人歓迎会 (2023.7.8)◆での新人たち <128~131期生>



“2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

これだけは言いたい「徳川モデル」の日本を脱却せよ

猪口 孝(国際政治学者)

< 青山 70期 >



【巻頭言】 猪口 孝氏

2010年という、凄く昔のようにみえるかもしれない。日本人の生き方や考え方は徳川時代に大体形成され、大変革は明治維新ではおこらなかったのではないかと。米国占領も内政は大体官僚機構任せだったと思います。現代の日本の政治研究が私の得意だったのですが、2010年は、長い歴史の中でよく考えました。でき上がったのが”日本政治の謎”です。毎日新聞の山崎明子さんが私に質問する形で記事が掲載されました。許可され転載されています。

東京青山同窓会事務局・工藤義夫氏推薦。

<< profile : 猪口 孝 >>

1944年、新潟県生まれ。

中央大学総合研究開発機構共同研究員。東京大学教養学部卒業。東大教授、国連大学副学長、中央大学教授、新潟県立大学学長、桜美林大学特別招聘教授を経て2023年から現職。日本語と英語でそれぞれ100冊、50冊刊行。米国最大の人名事典、Marquis Who's Who in America 2021. に掲載。Research.com に政治学分野で世界で1226位、日本で#1位にランクイン。

◆東京青山同窓会前会長・70回卒◆

Visiting Researcher

ELSI(Ethical, Legal, and Social Implications) Center Chuo University -13-27 Kasuga, Bunkyo-ku, Tokyo 112-8551, JAPAN

Google Scholar:

<https://scholar.google.com/citations?user=Jjw8QnEAAAAJ&hl=en>

email: inoguchi@ioc.u-tokyo.ac.jp

URL: <https://www.chuo-u.ac.jp>

RECENT BOOK PUBLICATIONS

Digitized Statecraft of Four Asian Regionalisms (with Lien Thi Quynh Le, Springer Nature, 2023)

Typology of Asian Societies: Bottom-up Perspective and Evidence-Based Approach (Springer Nature, 2022)

実力大学をどう創るか: ある大学改革の試み(桜美林大学出版会, 2021)

Japanese Politics in Comparative Perspective (Peter Lang, 2021) Japan's International Relations at the Crossroads (Peter Lang, 2021)

Digitized Statecraft in Multilateral Treaty Participation (with Lien Thi Quynh Le, Springer Nature, 2021)

The Development of Global Legislative Politics (with Lien Thi Quynh Le, Springer Nature, 2019)

【本文】 2023年3月10日 毎日新聞

日本を取り巻く不穏な空気に、国際政治学者で桜美林大学アジア文化研究所の所長、猪口孝さん(79)は気をもんでいる。ロシアによるウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル発射、覇権拡大をもくろむ中国。「政治も一般市民も世界に目を向け、地球規模の課題に正面から向き合わなければならない」と訴える。

すると、猪口さんは今年のNHK大河ドラマ「どうする家康」の舞台となっている江戸時代に話を飛ばし、太平の世をもたらした「徳川モデル」が現代の政治体制にも残っていると指摘する。その名残が今、日本が国際社会で存在感を示す上で弊害になっているというのだ。

猪口さんが「徳川モデル」と呼ぶのは家康が天下統一を果たした関ヶ原の戦い(1600年)から明治政府樹立(1868年)までの国家統治モデルのことだ。著書「日本政治の謎—徳川モデルを捨てきれない日本人」(西村書店)で詳しく論じており、江戸時代の社会全体を外交や政治、経済、社会、文化の五つの側面から説明している。

最大の特徴は何といっても鎖国だ。江戸幕府はキリスト教禁止を名目に貿易を制限し、海外渡航を禁じた。「織田信長、豊臣秀吉、徳川家康とも、世界から学ぼうという強い気持ちがありました。鎖国とはいっても全面的に国を閉ざしたわけではありません。ただ、対外的な窓口を限定し、外国からの侵略という脅威に備え、交易の管理を狙いました。武器の輸入が制限されたことで、一揆や国内の戦争を抑えることに成功しまし



徳川家康の騎馬像—愛知県岡崎市で2023年1月6日午後0時41分、川瀬慎一郎撮影

た」。鎖国による「軽武装」は外交の面で有効だっただけでなく、国内の経済や産業振興に注力することにつながった。

もう一つの大きな特徴は幕藩体制だ。「この統治方法は、將軍をトップとする幕府が外交・防衛を担当する一方、大名には藩を治める大きな権限を与え、地方自治を実践す

る疑似連邦制と言えます。それでいて幕府はたびたび藩主に違う所領を割り当て、配置換えをしました。そのため各藩は戦費を蓄えることができず自治や農業、殖産興業に力を割かざるを得なかった。藩財政は厳しく、官吏は税の取り決めをするため農民と協議しなければなりません。そのことが民主主義の出現につながったと考えられます」

ただ、この「徳川モデル」には功のほかには罪の側面もあるという。「江戸時代は平和が長続きしただけでなく、民主主義の種まきをした。評価されるべき政治モデルではありませんが、その成功にあまりにも慣れ過ぎてしまったことが問題なのです」

さらに、明治維新は近代日本へ向かう大きな転換期とされるが、猪口さんは政治システムが一変したとは考えていない。「廃藩置県で藩は解体されて中央集権化し、武士の時代は終わりました。でも、読み書きの素養がある武士は、すでに官僚化していました。武士出身者が中央省庁に進出し、中央官僚制度の強化につながったと見る。

420年の時を経て、現代にも「徳川モデル」は永らえているという。「帝国議会で作られた国内法のほとんどは『その場主義』で改正を続けてきた。敗戦後の連合軍占領を経て法体系が大きく変わったと考えるのは誤りです。21世紀に入り、世界でグローバル化(グローバリゼーション)と民主化が深まるにつれ、日本社会では国内法と多国間条約の間に溝が生まれています。日本が戦後の自由社会を達成したことは多国間条約が媒介したことを忘れがちです」と語る。

いわく、1951年に当時の吉田茂首相が連合軍側とサンフランシスコ講和条約を結び、米国と日米安全保障条約を締結。独立したが、軍事的には米国に依存することになった。軍備増強より経済成長重視の路線は「吉田ドクトリン」と呼ばれたが、猪口さんの目には「徳川モデル」に重なって見える。為替レートは1ドル=360円に固定され、極端な円安で自由な渡航が難しい「疑似鎖国」状態だった。その時に実現したのが高度経済成長で、「軽武装・経済重視」モデルはここでも成功体験として歴史に刻まれた。「その後も日本人の夢だった経済発展を記憶し続け、新しい考えや工夫の噴出を妨げているのです」

時代は進み、ウクライナ侵攻などに伴う驚異的な物価高騰の現代。国際情勢は悪化しているにもかかわらず、「徳川モデル」から脱却できないことに猪口さんは警鐘を鳴らす。「現代の日本は人口減少で国力が衰退し、経済は低迷している。食料もエネルギーも輸入に頼っている。日本の周辺で戦争は起こりえないという前提は、通用しなくなっているのです」と訴える。

猪口さんは多国間条約で日本が主導権を取り続けなければならないと訴える。「包括的核実験禁止条約を各国に再確認させたり、国連気候変動枠組み条約で海底資源の保護を主張することもできるはずだ。猪口さんは次々に国際条約の名を挙げ、こう主張する。「G7(主要7カ国)やG20(主要20カ国・地域)だ

“2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

これだけは言いたい「徳川モデル」の日本を脱却せよ

猪口 孝 (国際政治学者)

<青山70期> 2023年3月10日 毎日新聞

<前頁から続く>

けではなく植民地から独立を果たしたグローバルサウス(アジアなどの新興国)などとも協力関係を構築する必要があります」猪口さんはその土台を作るのが英語なのだ」と主張する。それには強い思い入れがある。

世界でもっと自己主張を

猪口さんは敗戦直前の1944年、新潟県に生まれた。「トンボや魚に興味があって、将来は生物学者になろうかと考えていましたよ」。自由な渡航は難しかった時代。それでも研究者になるためには、アメリカ留学が不可欠だと思っていた。大学入学後、無我夢中で語学を習得し、5カ国語を学んだ。努力が実ってマサチューセッツ工科大学大学院に留学を果たした。

21世紀に入り、学術論文は英語だけで執筆することを自らに課し、英語での学術書は20冊を超えた。「新しい考えや方法、そして理論について、討論を通して共有するのが研究者の喜び。そのために英語は必要条件です。世界の英語使用者の過半数は母語ではないのに、教育を受けた人が英語で文章を書けないようでは日本は世界の局外者になってしまう」と強調する。

研究者となってからは国際政治学を専門とし、国ごとの統治システムや経済・社会との関わりを比較、研究してきた。特に力を入れたのは実証政治学だ。世論調査の手法を用いて、アジアの国々で生活の質(QOL)の満足度を調査した実績もある。32カ国・地域の6万人を対象に、37の言語で福祉や医療、戦争などについて尋ね、データを分析した。研究の一環として80年代半ばからは、日本の政治体制について考察。歴史ブームが始まった10年ごろ、「徳川モデル」を問い直す試みを始めた。

今、最も注視すべきテーマとして「女性」や「人権」を挙げる。「国連には、多くの日本人女性が勤めています。国内に女性の活躍の場がないと、優秀な日本女性は外国に出ていってしまう」と危惧する。人権問題でも「入管施設での外国人の死亡は世界が関心を寄せています。このままでは、日本はまるで人権無視の国かと思われてしまいます」と悲壮感を漂わせる。

妻で参院議員の邦子さん(70)の存在も、研究に影響を与えている。邦子さんもかつて国際政治学を専門とする研究職に就いていたが、軍縮会議の日本政府代表部大使などを経て政界に進出。内閣府特命担当相(少子化・男女共同参画)も務めた。「彼女は帰国子女だったし、非常に刺激を受けた」。家事や育児を分担しながら、研究に追われる生活は20年以上続いた。

猪口さんは今、気がかりなことがある。5月に広島で開かれるG7首脳会議(サミット)で日本がリーダーシップを発揮できるか、だ。G7に先立ち今月1、2日にインドで開かれたG20外相会合を林芳正外相が欠席したのを受け、「国会質疑優先のルールに従ったのでしょう。それでも『クアッド』(日米豪印の4カ国の協力枠組み)外相会合には出席でき、国際機構や規範の尊重を強く主張したことは評価する」と緊張した面持ちだ。

「戦争は絶対に避けられるとは言い切れません。だから、巻き込まれないよう、相手の考えを読んで対処したり、協力者と組んで危機を回避したりする必要があります。軽武装で平和を目指す日本だからこそ、世界の舞台で必死に自己主張し、他国と連携しなくてはいいけません」

それが、猪口さんが訴える脱「徳川モデル」だ。【山崎明子】

■人物略歴

猪口孝(いのぐち・たかし)

1944年、新潟県生まれ。東京大教養学部卒業。東大教授、中央大教授、新潟県立大学長などを経て2017年から現職。東京大名誉教授。「実証政治学構築への道」(ミネルヴァ書房)、「データから読むアジアの幸福度」(岩波現代全書)など著書多数。



G20サミットの岸田文雄首相(中央右)ら各国首脳 2022.11.15 インドネシア・バリ島(共同)

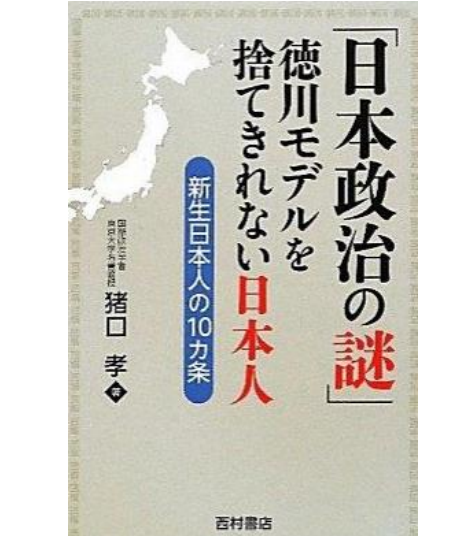


<< 関連の書籍 >>

「日本政治の謎」
徳川モデルを捨て
きれない日本人
猪口 孝 著
～ いまだに引きずる
鎖国時代の政策 ～

2010/12/13 8:00 評者 原田 泰
大和総研専務理事チーフエコノミスト

日本は元気がない。経済に元気がないばかりか、直近では、国際政治経済における無力さから、日本は終わったのかとまで感じさせられてしまう。戦後、武力をもって世界での存在感を高めようとしたわけではないので、ローマ帝国や大英帝国になぞらえるのはおこがましいが、オランダやベネチアが繁栄の最後に感じたであろう無力感を共有しているような気もする。



本書は、日本の閉塞感の理由を、鎖国時代の政策、徳川モデルをいまだに引きずっているからだとする。世界から取り残されないためには、徳川の遺産を捨て、世界標準語である英語を物にし、世界を動かす日本人になれとエールを送る。参照されるのは、安土桃山時代である。

織田信長とエリザベス1世は同時代人で、共通点が多々あると本書は指摘する。第1に、国内の対抗勢力、他の戦国大名、仏教勢力、商人共和国を壊滅させた。第2に、交易を盛んにし、海外技術の導入を図った。

第3に、強いリーダーシップを振るって改革に邁進した。当時、物資流通の妨げとなっていた関所には、鉄砲隊を送ってどンドン壊していった。

江戸時代には、そのようなダイナミズムは失われる。徳川時代は、鎖国、個人の存在意義のなさ、「隣百姓」で特徴づけられるが、グローバリズムの中で、それではやっていけないと説く。

日本の未来を信長の力で展開することができなかったのが残念という。信長は、日本を治めるという夢のために、夢中になって考えた。刀や槍に代えて、海外の技術を取り入れた鉄砲を用い、戦術を変えた。隣の人と同じことをしているだけでは、世界を切り開いていくことはできないからだ。

確かにそのとおりと説得されるが、残念ながら日本全体はそうなりそうにはない。

◆内容説明

政策革命と新・日本人論。日本が世界からとり残されないために、日本が沈没しないように…信長が考えた未来、大化の改新、明治維新から日本を変える。

◆目次

- まえがき 徳川モデルを捨てきれない日本人
- 1章 欧米からみた日本政治の謎
- 2章 信長、そしてエリザベス女王の時代
- 3章 徳川時代の特徴
- 4章 徳川遺産を「捨てる！」
- 5章 新生日本人の10カ条—パックス 平成への進路
- 付録 政治理論における宗教の位置
- あとがき 日本政治の謎

60回生の同期会 ~ 2023、2021 ~ 1990年

寄稿・金山常吉(64回)

令和5年(2023)5月16日 「MUZO」卒寿の会 於 新橋亭

「MUZO」卒寿の会・令和5年

記・世話役・高城英雄

マスク無しアルコールなしで開会。

ウーロン茶で乾杯。料理は8品、各人健啖家で完食。食後、各自の近況報告があり、脳活と健康のためピリヤードを始めた人、ゴルフの自分歴のカラー冊子を持って来た人、聴力が減退したので手話を勉強してコミュニケーションの維持を図っている人、愛車・音響機器・旅行など趣味の総集編を冊子にした人、囲碁の会に週2日ほど出席している人、また闘病中の同期が碁の対局を望んでいると言うので月一度訪ねてお互いを励ましている人、また家系図と家族物語を子供たちや従兄・甥・姪の協力で作成した等などが披露された。みな、夫々に目標を持って頑張っているのだと感銘を受けた。最後は校歌を元気な声で合唱した。



阿部嬢 笠原功 松尾克己 落合夏樹 金山常吉 石黒忠士 阿部和彦 矢崎芳直 高城英雄
藤本夫人 片岡真 小林満 藤本剛 島田薫 杉野剛博

令和3年(2021)12月6日 「MUZO」米寿の会

於 新橋亭



高城英雄 阿部和彦 島田馨 藤本剛 落合夏樹 松尾克己 片岡真
杉野剛博 小池健司 小林満 金山常吉 矢崎芳直

平成2年(1990)8月21日「MUZO会」築地・恭川



2023年 ~ 64回生の同期会 ~ 4年ぶりに開催

記・幹事 星満(64期)

令和5年(2023)7月1日 第64回生・東京同期会 於・御徒町・吉池

《参加者》

- 石井芳雄
- 植村靉音
- 江部陽一
- 遠藤治一
- 大野京一
- 風間治雄
- 川井文夫
- 川上修
- 桑野光雄
- 斎藤博夫
- 坂井俊一
- 佐藤茂司
- 真田靖士
- 菅野勝
- 須田嶺治
- 高橋正幸
- 高見浩
- 田辺元彦
- 中川純子
- 中島郁子
- 長浜俊介
- 藤沢靖郎
- 星満
- 真壁日史郎



2023年7月1日
青山64同期会

令和5年7月1日(土)、御徒町の吉池で、コロナ後4年振りに、新潟高校第64回の東京同期会を開催した。出席者24名、年齢は全員が85歳~86歳。最初の、遠藤治一君の音頭で乾杯。その後、各自の近況報告で始まった。出席者は全員が元気で、陽気に話していた。令和元年からの5年間に亡くなった方は、東京支部で、平石次郎君、牛木容三郎君の2名、新潟関係も含むと計5名。

記・星満

2023年 ~74回生の東京同期会【 酔都志会(よいとしかい)】

記・幹事
工藤義夫(74期)

◆<酔都志会>令和5年◆ ~コロナ中断4年振り~ 八重洲ダイアナ 2023.5.13(土)15~18時



九里 保 坂井 靖 川上 耕 池田正行 鹿嶋正裕 石黒 稔 完戸誠司 高橋信郎 伊藤 宏
中村公美子 佐藤信秋 高橋 保 竹之内 明 渡辺圭子 小竹孝之 中村義一 浅間 正 沼田 清 工藤義夫
池田 裕 川田澄子 島津満里子 小林淳子 藤田広子 大石美江 田澤博史 土屋彰義
石井 明 原 信一 大石憲一 古海正子 菊池 隆
< 荻森杏子(128期) 鈴木理央 > <4/32>

東京青山同窓会総会の1ヶ月前に同期会を開いてみた。コロナ後の大人数で果たして大丈夫かな?と疑心暗鬼。だがどうやら杞憂であったようだ。新潟金沢神戸奈良静岡等の遠方からも友来たり。居酒屋の3時間のお喋りはいとも短い。新潟での同期会はもうない……



“2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集; 工藤義夫(事務局)

南場智子DeNA会長のスタートアップ論 ～ 起業が当たり前

スタートアップの数をまず増やす。サポート体制はグローバルに

南場 智子 (DeNA創業者)

<青山89期> 2023年5月15日 METI Journal



<<南場智子 プロフィール>>

1986年マッキンゼー・アンド・カンパニー入社。1990年ハーバード・ビジネス・スクールでMBAを取得。1996年マッキンゼーでパートナー(役員)就任。1999年にディー・エヌ・エーを設立し、現在は代表取締役会長。2015年より横浜DeNAベイスターズオーナー。2021年からは女性初の経団連副会長も務める。

◆東京青山同窓会講演; 2017年総会 ◆

◆起業するのが当たり前に。DeNA南場智子会長のスタートアップ論◆

政策特集日本をスタートアップ大国へ vol.1
日本をスタートアップ大国へ政策特集

求むニューヒーロー！ 日本経済が長期停滞から抜け出すために、絶対的に必要と考えられているのが、力強いスタートアップ企業の出現である。

世界の株式時価総額のランキング上位を見ると、1970年代に創業したアップルやマイクロソフトは完全に老舗の部類に入る。アマゾンや、アルファベットの子会社であるグーグルは1990年代に誕生し、メタ(旧フェイスブック)やテスラは2000年代に登場するなど、この20～30年間で一気に発展した企業がひしめいている。一方、かつて上位を席巻した日本企業の名は、残念ながら見当たらない。

日本でも多彩なスタートアップがまばゆい光を放った時期はあった。第2次大戦後の経済成長をリードした企業の一角には、ソニーやホンダといった当時のスタートアップがいた。

政府はこの現状を巻き返そうと、2022年をスタートアップ創出元年と位置付け、スタートアップ育成5か年計画を策定。2022年度第2次補正予算ではスタートアップ支援の関連経費として過去最高規模の約1兆円を計上した。

日本が今からスタートアップ大国を目指すことはそもそも可能なのか。それには、どうすべきかを考える今回の連載。その手がかり

政府は2022年をスタートアップ創出元年として、今年が2年目。具体的な施策はこれからだが、雰囲気は変わってきている。特に、東京の風景はすでにだいぶ変わっている。起業してそれを楽しんでいる人が身近にいるのは、本当にいいと思います。

日本が政府も含め、スタートアップに本気であることは、国内外に伝わっていて、世界の機関投資家の皆さんも気づいている。だから、これから本格的にお金が動き始めるんじゃないかと期待しています。

ただ、政府がスタートアップ育成5か年計画をまとめたといっても、それだけで世界で大勝ちするスタートアップが生まれるわけではない。人が急にグローバルになれるわけないし、教育がすぐ変わるわけでもない。まずできることは、スタートアップの数を増やすことだと思っています。

そうすれば、中から、何%かは有望な企業が出てくる。そのときに、純ドメ※ではなく、世界のベンチャーキャピタル(VC)につなぐなどして、早めにグローバルな応援団をつくることをやっつけていかないといけない。グローバルでの成功を目指すスタートアップは、ビジネスモデルからお金の質、ガバナンスの体制など、グローバルスタンダードに向けて準備していくことが重要だからです。

※純ドメ・・・純ドメスティックの略。ドメスティックは国産・国内の意

海外からの資金を得るための呼び水は、お金がグローバルになり、すごく大事なことで、ぜひやってほしい。日本人だけがエキサイトしているエコシステムからは、グローバルリーダーは絶対に生まれません。日本のスタートアップのエコシステムも、世界のエコシステムに組み込まれていかなきゃいけないです。「スタートアップが生まれ、育つエコシステムをつくることこそが、政府のやるべきことであると、強く思っています」エコシステムも国際競争。全てを一斉に変えることが必要

経営者に女性が少ないこともあり、経団連の副会長になるようにお声がけいただきました。でも、エスタブ※になったら終わりだし、ずっとお断りしていたのです。そうなんですけど、当時会長だった中西さん(中西宏明氏)のことは

尊敬していたし、いろいろとよくしていただいていた。病床の中西さんから頼まれて、「イエス」か「はい」しかない状況になり、お引き受けしました。

※エスタブ・・・エスタブリッシュメントの略

どうせ受けるからには、スタートアップに関わりたいたい。経団連の事務局から他の委員会の委員長になるように依頼されたときに、こちらから「スタートアップ委員長やらせてください」とお願いして、加えてもらったんです。

それまでも官邸の会議などに参加したことがあり、スタートアップについては私もキヤーキヤー言ってきましたが、十分とは思えませんでした。

スタートアップはエコシステムの問題で、普通は30年とか40年の時間がかかってつくられるわけです。それを5年や10年で作るには、起業家の量と質、お金の量と質、それに規制、起業家をサポートする環境などなど全てを一斉に変えなきゃできない。だったら、今度は経団連というビークル※を使ってみようという意図があったのです。

※ビークル・・・本来は乗り物のこと。広く輸送手段の意味で用いられる。なんで無理して5年かという、スタートアップ政策はアメリカもヨーロッパも中国も韓国もインドも、日本の先を進んでいるからです。エコシステムも国際競争なんですよ。

私は国が「この領域だ」と決めて、兆円単位のお金をどかんと突っ込むという産業政策で成功するのは、難しいと考えています。それはもう昭和のモデルだね。世界は、政府の意思決定のスピード感より先に行っている。それに、事業をやったことがない人が、勝てそうな領域とか正しく定められるだろうか。

そういうことより、スタートアップが生まれ、育つエコシステムをつくることこそが、政府のやるべきことであると、これは強く思っています。世界を見ると、新しい会社がどんどん大企業を越えていっている。日本はそういうダイナミズムがないのが最大の問題です。今の経団連企業を追いかけ、追い越して、世界で堂々と試合をする若い企業が生まれないとはいけません。スタートアップ躍進ビジョンには、そのために大事なことはできるだけ入れました。

“2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」から”

編集;工藤義夫(事務局)

南場智子DeNA会長のスタートアップ論 ～ 起業が当たり前

<前頁から続く>

人材流動化は急務。スタートアップへの寄り道は大歓迎すべき

スタートアップをやっている本人たちからすると、余計な規制だけは取っ払ってくれということですよ。同時に思うのが、例えば事業を始めようとして、弁護士事務所などに法的に問題がないかを確認したら、「黒ではなくてもグレーです」と言われて、引っ込んだりうやむやなケースがすごく多いんです。それに対応するために国には特区制度や規制のサンドボックス制度、あるいはグレーゾーン解消制度などがあるのに、スタートアップに知られていないことがあります。

経団連でも取り組むつもりなんだけど、教育現場で起業家の人と接する機会をつくることとかね。

その点では、5か年計画にはあまり入らなくて残念だったけど、留学がすごく大事だよ。インバウンドもアウトバウンドも両方。世界中の起業家を日本に呼び込むといっても、いきなりポテンシャルの高い人材が日本に事業をしにやって来るというのは考えにくくて、日本に留学していた人が、そこで起業するとかでしょう。

また、留学で外に出てから、起業すれば、世界市場を最初から頭に入れることにそれほどハードルがないはず。グローバルな事業家になるマインドセットが自然とできるでしょう。

帰って来なくて全然構わないですよ。世界で通用しない人間が日本を救うことはできないから。それに、最初は帰ってこなくても、将来帰ってくるかもしれない。その分は、海外から優秀な人間をいっぱい受け入れればいいんです。

優秀な人材を失うことを心配するより、グローバルに成功することを歓迎するようなおおらかな気持ちがないと、駄目だと思うね。

とにかく、全体的に人材の流動性を高めないといけない。大企業は新卒一括一辺倒の採用をやめて、中途採用の人から幹部をたくさん出せば、途中からもメインストリームに入れるというメッセージになる。卒業後にスタートアップをやってみたとか、スタートアップをやっている先輩を手伝ってみるとかして寄り道した人を大歓迎するふうになってほしいです。

DeNAのようなメガベンチャーとスタートアップとの間では、人の流動性が高いのだけれども、伝統的な経団連企業との間には川が流れている。これは、橋を架けるとか生ぬるいことじゃなくて、もう地続きにして、人が行ったり来たりするというのを本当に実現したらいい。これは賃上げにも絶対つながりますよ。

大企業がスタートアップを育てるという考えは間違い。M&Aの積極活用を

可能性の高いスタートアップにグローバルな目線を持つことを働きかけたり、さっきも言ったけど、世界一流のベンチャーキャピタルに有望なスタートアップをつないだりすること。それと、大企業は大企業で、必死になって世界で勝とうと頑張ればよいのであって、スタートアップに優しくするとか、慈しみ、育むという考え方は間違っていると思っています。それより目を皿にして有望なスタートアップを探し、買収すべきだね。DeNAはスタートアップに対するM&Aの実績が豊富です。

DeNAでは、買収したスタートアップを事業の大事な柱に組み込んでいます。一方で、自分たちのコアじゃなくなれば、良い事業であっても外に出しています。将来は起業したいと思っている人がDeNAに入ると、入社して何年か経ってから、「そろそろどう？」と私から声をかけることもあります。

そういうことやっている会社は他にはないでしょうね。でも、起業したい人はいずれ起業するので、そうであるならば、いいタイミングでサポートしてあげるべきでしょ？ DeNAにはVCもあるので出資できるし、成功まで協力できることはいっぱいあります。

もし失敗しても、また戻ってきてもいい。大成功したときにはDeNAとして買収に手を挙げることもあります。

スタートアップはこんなに面白い！「なんでやらないの？」

人間の幸せって、半分は夢中さから来ているよね。だから、スタートアップにいと、みんなよく働くよ。市場から切り捨てられるか、受け入れられるかに生々しく向き合っていると、プロダクトに対する思いが全然違ってくるからね。

スタートアップをおこすことに、すごいリスクがあると思っている方がいるのですが、全然そんなことないですね。そういうことを言うのは、実は自分ではやったことがない方が多いです。挑戦をリスペクトする社会になってきています。レピュテーション的にもトラックレコード的※にもリスクはないし、金銭面で身ぐるみをはがされることもありません。

もちろん、スタートアップをやれば、それはもう胃が痛くなるほど大変です。上司の機嫌をとるのは質が違い、本当の勝負の胃の痛さですよ。だからこそ、「なんでこんな面白いことやらないの？」という気がしています。若い人じゃなきゃいけないこともなくて、老若男女みんながやればいいんですよ。

※レピュテーション…評判、トラックレコード…実績や履歴

METI Journal



:DeNA



2017. 6.16 東京総会にて講演



次世代を担う人材へのメッセージ

株式会社ディー・エヌ・エー
南場 智子

:DeNA

“2023年～報道等に見る「青山ゆかりの方々」”

編集:工藤義夫(事務局)

『100年前虐殺事件なぜ新作に』 映画《森 達也》に聞く ～福田村事件～

映画監督 青山83期



映画「福田村事件」で自警団が行商団を取り囲む場面の撮影のため、俳優たちに演技を指示する森達也監督(中央)
=2022年9月14日午前、京都府、北野隆一撮影
9月に公開される森達也監督の映画「福田村事件」。今年100年を迎える関東大震災の際の虐殺事件を描いています。長く歴史に埋もれていたこの事件は、どのように掘り起こされたのか——。本や歌で、記憶をつないできた人々の話です。

埋もれていた福田村事件・森達也監督映画で新たな問いかけ 2023/7/14 配信 朝日新聞

「自らの加害性を見つめるのはしんどい。でも目をそらしてはならない」と語る映画監督・作家の森達也さん

◆普通の人々が加害者と化す集団の力学 一人称の主語を失う怖さに気づいて

オウム真理教、右翼、放送禁止歌、死刑、天皇……。虎の尾を踏むとわかりきっているのになぜ、というテーマを作品化してきた映画監督・作家の森達也さん(67)。その異才が、初の劇映画作品で選んだ題材は、100年前の虐殺事件。何が狙いか。(石川智也)

オウム教団を内部から撮ったドキュメンタリー「A」以来、社会の「空気」の変化を捉えた作品に定評がある。しかし当人は空気を読まない、いや読めない男の空気が漂う。仏頂面で無愛想。だが率直。質問には一呼吸置き、じっくり悩んで答える。

「自分でも直したいんですけどね。子どもの頃から、なぜか周りと同じことができない。『A』を撮った時、同業者たちから『なんでお前だけ撮影できたの?』と言われたけど、僕はごく普通に広報に手紙を書いて取材申請をしただけ。当たり前のことを当たり前にならなければ、他のメディアは手順を踏んでいなかった。結果、僕だけが特異な立ち位置になってしまった」

◆関東大震災後の狂気

集団から浮いている、という肌感覚レベルの違和感が、手がかりになってきた。

今回の映画「福田村事件」(9月1日公開)も集団、それもその狂気を描く。関東大震災発生5日後の1923年9月6日、千葉県福田村(現野田市)で起きた凄惨(せいさん)な事件。香川県の被差別部落から来た行商団15人が朝鮮人と決めつけられ、地元の自警団に襲われ9人が惨殺された。歴史の闇に埋もれてきた事件と言ってもよい。

朝鮮人差別、部落差別、社会主義者の弾圧……と要素は複層的だが、焦点は何より、ごく普通の市井の人々が「加害者」と化す過程だ。襲撃者たちの個々の人格や日々の営みが丹念に描かれるほど、被害の理不尽さと群集心理の恐ろしさが浮き立つ。

「たぶん被害者の視点で作るのが正攻法なんです。感情移入しやすい。でも描きかけたのは、普通の人、善良な人が悪を犯すということ。僕にもその要素はある、あなたにだってある。そしてそれは、集団の力学によって誘発されるんです」

ある種のパツタは、群れ化すると個体の性質まで凶暴に変わる「相変異(そうへんい)」を起こすという。「同じように、日本人は100年前、集団で規律正しく暴走したんです」

「人間はケダモノにも聖人にもなる。ナチス親衛隊員もクメール・ルージュの幹部も、家に帰れば良き夫、息子だった。群れの暴走は世界中どこでも起きる。でも同調圧力と忖度(そんたく)の強い日本では、この力学が明らかに働きやすいと僕は思う。特に戦争や災害で不安や猜疑(さいぎ)の空気が充満した時に」

ただ、東日本大震災の直後は100年前とは異なり、日本人の互助精神と秩序を守る様子が海外でも称賛されたが……。

◆「群れ化」むしろ悪化

「関東大震災の時の教訓があった——そう言いたいけど、違うと思う。日本人は一人ひとりでは和を乱さない。非常時なのに略奪もなく整然さを保ったというのは、日本的群れ化の一面。災害ユートピアとディストピアは、裏表ですよ」

つい3年前にも、感染者を罪人のようにたたき、「自粛していない」店や個人に嫌がらせる人々の姿があった。コロナ自警団と福田村事件の自警団には大きな隔りがあるものの、本質的には、確かに変わっていないかとも思える。いや、むしろ悪化していると森さんは見ている。その起点はオウム事件だった、というのが持論だ。

「事件後に続いた信徒に対する微罪逮捕の後遺症は、今も社会をむしばんでいる。体感治安の悪化で防犯カメラが増殖し、少数者を異物として排除する空気が強まった。正義と悪、敵と味方、被害と加害。右と左。単純な二元思考も広がっています」それは他ならぬオウム事件が終わっていないからだ、とも言っている。

「不安の正体は、主犯の麻原彰晃(本名・松本智津夫)元死刑囚が何を考え、なぜサリンを散布したのか、その根幹についての回答を僕らの社会が得ていないから。本人に動機を語らせることなく、実質的に一審だけで死刑が確定し、そのまま刑が執行された。あり得ないほど異様な事態です」

「拘置所での拘禁反応の兆候や法廷での不規則発言を、テレビや新聞は『現実逃避』と報じ、事実上『詐病』と断じた鑑定結果を裁判所はそのまま受け入れた。『早く処刑しろ』という国民の声に、司法もメディアも従属してしまった」

◆大切なのはメディア

関東大震災後の悲劇も、メディアが大きな負の役割を果たしてしまった。

「虐殺は、集団の力学だけでなく、きっかけが必要。それは二転三転した国の通達と、流言飛語の真偽を確かめず『不逞(ふてい)鮮人』への警戒をあおった新聞でした」

ならば、マスメディアを相対化するSNSが100年前に存在したなら、惨劇は未然に防げたのだろうか。

「どうでしょう。東日本大震災後のように、ひどいデマが拡散された可能性だってある。だから昔も今も、大切なのは報道メディアですよ。報道はマッチを擦って点火することも、消火することもできる」

「A」や佐村河内守氏を追った「FAKE」で、カメラは教団や「ニセ作曲家」の異様さよりも、取り囲む住民や記者たちの暴力性を映し出した。世の多数派と異なる視座の表現スタイルは常に「逆張り」と非難されてきた。「メディア批判映画」というのもお決まりの評だ。東京新聞の望月衣塑子記者を被写体にした「i」も、強い印象を残すのはむしろ、官邸での質問中に報道室長が繰り返す「質問は簡潔に」という横やりにも反応せず、ひたすらキーボードを打つ内閣記者会の記者たちの姿だ。

「A2」では、オウム施設を監視する住民が信徒と心を通わせ、和やかに交流する様子が映る。「住民と敵対するオウム」という図式から完全に外れた現場の真実だ。

「その場の記者たちは皆知っていた。でも報じなかった。ジャーニー喜多川氏の性加害疑惑や、旧統一教会と自民党の問題と同じ。メディア内部で、個人が自主規制や忖度から思考停止し、一人称の主語を失うことの怖さです。メディアと社会は合わせ鏡。それをまず皆さんには気づいてほしい」

このインタビュー中も、何度も「石川さんはどう思う?」と逆質問が飛んできた。一人称を保て。そう言わなければいい。

いつの間にか主客が反転する。この人への取材はいつもこうだ。

*

もり・たつや 1956年、広島県生まれ。立教大卒。テレビ番組制作会社から独立後の98年、オウム真理教を取り上げたドキュメンタリー映画「A」を発表。2001年には続編「A2」も公開、賛否両論を巻き起こす。著書に「下山事件(シモヤマ・ケース)」「ドキュメンタリーは嘘(うそ)をつく」「死刑」「A3」など。「千代田区一番一号のラビリンス」など小説作品も手がける。



【森 達也 プロフィール】

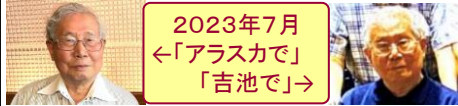
1956年、呉市生まれ。新潟高校83期卒、立教大学では、自主映画製作集団「パロディアス・ユニティ」サークル。就職せず演劇活動に打ち込む。29歳の時、林海象の監督デビュー作『夢みるように眠りたい』に主演する筈だったが、森が入院したため代役として佐野史郎が出演し、佐野の演技力と作品のヒットの結果で役者を諦める。後も職を転々とし、不動産会社、商社、1986年テレビ番組制作会社へ転職。後にフリー人として制作。

オウム真理教信者達の日常を追うドキュメンタリー映画『A』を公開。ベルリン国際映画祭に正式招待される。その後、「放送禁止歌」、「ゴーストライター問題」題材の映画「FAKE」、i新聞記者ドキュメント等、タブーから目をそらさない姿勢で取り組んだドキュメンタリー作品を出している。

「追想：終戦から日本に辿りつくまで（満州引き揚げ）」 連載・第1回 ～ 星満(64期)

二つの祖国～満州から新潟へ

“星満”<青山64期> 2023.7 寄稿



<<満州国とハルビン>> 解説

「極東のパリ」。中国東北部の街ハルビンは、そう呼ばれていた。日本が謀略で打ち立てた満州国の時代、目抜き通りに洋館が並ぶ街。ハルビンは、もとは革命前の帝政ロシアがいち早く進出し、中東(東清)鉄道の拠点として開発した街だった。

<<本文>>

1) はじめに

昨今のロシアのウクライナに対する残虐ぶりを耳にして、またかと思ひ、私たち日本人が、戦後の満州において、ロシア軍からどれだけの迫害を受けたかを思い出した。以下の文章は、当時小学2～3年(昭和20～21年)だった私の体験を、5年後、中学3年の私が記録したものである。文中、僕と言うのは小2～3の私である。今回、若干の追記・修正を加え、文中の一人称が私と言う場合及び注記部分は追記した個所である。当時、我が家は 満州(現在中国東北部)ハルビン市に住んでおり、ハルビンは革命前のロシアが、パリを模して建設したヨーロッパ風のモダンな都市(当時人口47万人程度)、ロシア革命後には主に亡命ロシア人(白系露人)の街で、ハルピン発シベリア経由パリ行き列車もあった。現代のハルビン市人口は正式には200万人だが実際は800万人、白系露人2名?と、以下の研究所で聞いた。話した研究員は中国人口13億人も信じておらず、20億人はいる筈とも言っていた。なお私は、スバル退職後、技術士事務所を設立して独立。中国政府の招聘を受け、長春(旧満州首都新京)の国立自動車研究所でエンジンに関して指導したことがある。その際、ハルビンの元自宅(外国人向け住居で、住所:外国3道街72-5、現在は中国3道街と変更)にも案内され、深く感慨に耽ったことがある。但し、当時の美麗とも言えた都市美及び我が家が、すっかり中国風に改悪され、愕然としたのを覚えている。なお、私の名前は、満州生まれから来ている。

2) 終戦のとき

終戦になったのは昭和20年の夏休み中で、僕が8才小学2年(当時国民学校)の時。その日僕達が班長(夏休み中の面倒を見てくれる上級生)の家で勉強していた時「今日12

時から天皇の玉音放送があるから聞くように」と伝えられた。それを聞いた時に何か嫌な予感がした。それは前日近所の日本人の子供が、ハルピンスタジオ(陸上競技場、冬季スケートリンクに変貌)でロシア人に「ロシアに日本が負けた」と言われたそうである。やっぱりそうだった。天皇の玉音放送は日本が降伏した事を知らせたのである。それを聞いて日本人は皆涙を流して悔しがった。一等国から四等国へ。そして僕達に大人しかった満人(中国人)の態度ががらりと変わった。誤っても満人など言ったら大変。凄じ剣幕で「俺は中国人だ」と云う。下手すると暴力沙汰になる。三日置いてハルビンにロシア軍が入城して来た。その日、父の会社の柳生重勝さんを引っ張って見に行った。キタイスカヤ(注.国際的にも知られた繁華街。現在は中国大街と改称)を、パレードの自動車は何台も行く。ロシアの勝利の旗を掲げて・・・その日から、以前に日の丸が翻っていた場所に、やたら赤いソ連の旗やスターリンの肖像画が目につくようになった。

3) 悲惨な戦後、残虐なロシア軍と意外と優しくなった八路軍

その翌日ロシアの兵隊が僕の家へ乗り込んで来た。彼等の名目は武装解除だが、土足のまま上がり、ダワイと銃を突きつけ乍ら(戦時体制なので実弾込み)、通訳に何か言った。通訳は「武器ありませんか」(注、通訳は一応丁寧語。我が家にあった日本刀を供出)と聞いて来た。母は僕と姉に向こうへ行けと合図したが、僕達は怖い物見たさで行かなかった。兵隊達は僕達に銃を代わる代わる突きつけ次々と尋ねた。「写真機ありませんか」「双眼鏡ありませんか」「時計ありませんか」最後に「金ありませんか」と聞いた。彼らは略奪に来たのである。勝手に家の中を荒らし、目ぼしい物は奪って行った。驚いたことに、両腕に沢山の略奪して来た腕時計を巻き付けていた。(注.当時腕時計は貴重品で、彼らにとって大切な戦利品) こういう略奪は、何かあるごとに来て、結局5～6回はやって来た。更に、日本人を恨んでいた中国人の略奪もひっきりなしで日本人は生きた心地がしなかった。事実、逆らった日本人は即座に撃たれ、宝田明氏(タレント)は中学生にも関わらず、足を銃撃されたと言っている。日本人の人権は否定され、好いように殺されていた。

しかしロシア兵はこれだけで済まなかった。娘を攫って行く(注.真夜中に日本人宅に押し入り女狩りする。一晚中集団レイプし、翌日死体で放り出す。女性は顔を炭で汚し、玄関が叩かれると、直ぐトイレに隠れるなど。更に街行く日本女性は、昼間でもロシア兵に人前でもレイプされ、一切外出出来なくなった)。働き盛りの若い男は強制労働に狩り出され、そして医者、看護婦、技術者は拉致された。その上あちこちの街で、日本人多数を建物に押し込め、めちやめちや撃ち殺した、こっちの街は焼け野原にされた、などの嫌な噂が広まった。単に噂でなく、毎日、日本人の死体を焼く煙が、桃山小学校(僕の通っていた学校で、避難民収容所に当てられていた)で絶えなかったと、なかにし礼の小説(赤い月)に書かれている。

(注、なかにし礼:当時、牡丹江からの避難民で、桃山小学校に収容されていた。私より一歳年下。)

ハルビンのような大都市は、まだまだだった。多くの開拓民の人々(王道楽土の名の元に日本から連れて来られた)はロシア進軍ルートに土地を与えられ、ロシア軍には勿論、元々土地所有者の中国人に酷く憎悪され、想像も付かない悲惨な状態に置かれていた。多数が殺され犯され、生き残りは避難民になって、ハルビンなどの大都市に流入。これらの人々は当然当てが無く、行き当たりばったり日本人宅に入り込み、これを追い払う訳に行かず、僕の家には多い時には5家族が同居して居た。また僕の家は広かったので、学校にも提供された(注.学校はロシア軍に廃止され、各地区で寺小屋方式に隠密裏に始められた)。これもロシア軍に禁止されており、主催者が事あるごとに銃殺され命懸けだった。

少し経った在る日、突然、ロシア軍がハルビンから姿を消した。母が中国人の店で野菜を買い、大きな札を渡すと変な札を釣りに寄こした。「これは何?」と聞くと「八路軍(中共軍)の軍票。」との答え。良く聞くと明日、ロシア軍と交代して八路軍が入城すると云うことである。僕は早速この嫌なニュースを友達に伝えた。皆も暗い顔をしていた。翌日八路軍が入城して来た。日本人は彼等を恐れたが、彼らは軍律が厳しく略奪もなく、ロシア軍のようなことはしなかった。軍服は貧しかったが、凜々しく見えた。実は当時の日本軍の残党は、投降先として主に八路軍を選んだようである。彼らの軍事技術と装備が、八路軍の軍事力を大幅に増加し、結局、国共戦争に勝利をもたらした。戦時中の関東軍(満州の日本軍)は、主に国府軍(当時の中国正規軍)と戦っており、八路軍とは殆ど戦って居なかった。

後日、周恩来首相が、日本には大変お世話になり、感謝していると述べたのを聞いたことがある(注.国交回復時、田中角栄首相へ)。即ち、現在の中国政府の言い分は出鱈目である。当時の満州在住の日本人の殆どは、反ソ親中(八路軍)であった。しかし、何時か革命時のころざしを忘れ、傲慢に成ったようである。私も技術コンサルタントに成った折、中国政府からの依頼を恩返しに積りで引き受けたが、結局は反ソ反中に成らざるを得なかった。

後述するように、当時の日本軍の八路軍への投降が、満州の日本人の引き揚げに繋がったのは、私も平成に至る迄知らなかった。この頃になると国共戦争が烈しくなり、遠く新京(現長春)辺りからも、大砲などの戦争の激音が一晩中轟き、ハルビンも戦場になるのではと、恐怖に慄いた。敗戦当時、関東軍の精銳は南方に送られており、ハルビンには殆ど現地軍集の弱兵ばかりで、その人たちはロシア軍に逮捕され、何処かへ連れて行かれた。(シベリア?これに関しては昭和30年代の日ソ交渉迄未解決)そして更に驚いたことは、軍部上層部は家族ぐるみで既に逃げており、ハルビンに残された日本人は一般人と現地召集兵だけ。残された日本人は、昨日迄威張っていた軍部に対し、ロシア軍以上に怒りを感じた。

「追想：終戦から日本に辿りつくまで（満州引き揚げ）」

連載・第1回 ～ 星満(64期)

二つの祖国～満州から新潟へ

“星満”<青山68期> 2023.7 寄稿



ハルビン：ロシア様式教会と百貨店

<前頁から続く>

4) 敗戦国人の悲惨な状況

昭和20年11月頃、日本人を引揚げさせると言う噂がパット広がり、誰の顔にも明るい色が見えるようになった。実は、当時の日本人の最大の問題は、冬越しするかどうかであった。ハルビンの冬は零下30度にも下がり、冬越しのためには地下室一杯の石炭の貯蔵とそれに匹敵する食料の貯えが必要である。もし年内に日本へ引揚げられれば、何とか生き延びることが出来る。毎日日本人の家へ中国人の商人が来て、原価の数%で家財をどんどん買い取って行く。売られたのは家財だけでなく、子供もだった。女の子は60円、男の子は50円(実際私に付けられた値段、女の子60円は、我が家在住避難民の女の子。別に売られなかった)。中国の結婚は花嫁を買うのであり、貧乏な男には花嫁は買えない。日本人の女の子も、高く売られたのであろう。日本の結納もその名残り。男の子は殆ど奴隷である。流石に元々ハルビン在住の日本人は、子供を売ることは無かったが、売られたのは主に避難民の子供、更に女性であった。(注 結婚すれば、家族ごと面倒見るとの甘言で) 序に言う引揚げ時、足手まといの老人や病人、子供も途中の農村に捨てられたり売られたりしていた。(その現場を見ていた) 後日、大陸孤児問題が出た際、多くの親が名乗れなかったのは、捨てた子供に今更顔を見せられなかったかと思う。老人や病人は、家族の足手まといになるのを嫌い、自ら捨てられることを望んでいた。しかし、引揚げの噂も一ヶ月位続いたが、それがデマと解った時、多くの日本人は悲惨な状態に陥った。此の噂を広めたのは、悪どい中国人商人によるものと推測する。

それから少し経った或日、元の使用人で電気ドリルを盗んで刑務所に入れられた中国人のヤンが物凄い形相でやって来た。そして母に「刑務所で時計だのシューバ(毛皮のコート、ハルピンは冬季-30℃にも達し、毛皮無しでは生きていけない)だの、衣類を取られた。6万円(昭和20年当時、今では1,000万円以上)弁償しろ。」と脅迫して来た。しかし短気な父に比べて母は日頃から使用人を可愛がっていたので「今あなたに6万円やりたいのは山々だけど、無い物はやれない。家のものを何でも持って行け」と家に残っていた目ぼしい家財を渡すと、ヤンはそれを持って帰り、その後ちよくちよくやって来ては、食糧が足りないのを知ってか、米や魚を携えて来るのだった。なお満州在住の日本人は、中国人に酷い仕打ちをしたと伝えられているが、我が家では母が従業員の中国人を

可愛がっていて、戦後もそれで可成り助けられた。近所付き合いも、白系露人、中国人、勿論日本人とも、分け隔てなく付き合い合っていた。

その頃、中国軍(注 国共どちらか不明、戦況によって変貌する)が本溪湖(奉天近辺)を占領。日本人を虐待していると言う噂が伝わって来た。本溪湖には父の会社の工場があり滞在中。現地中学校に入学した兄も居た。母は大変な心配で、何とか消息を得たいと、使いに元の使用人の朝鮮国籍Kに依頼した。だがこの頃の旅は、日本人でなくても多くの危険を伴うので、中々承知しなかったが、礼金に5千円(現在の100万円以上)を前渡し、やっと首を縦に振らせた。けど矢張り恐ろしいのか、出発の直前に行かないと言いつつ。そこで母は「前金も渡したし、もう行って貰うしかない」と気色ばみ3時間の言い合いの後、彼を送り出すことに成功。それからKの帰って来るのが待ち遠しかったこと。口には言い表せられない。彼は2週間程して無事に帰って来た。話によると噂は、成年男子に強制労働を課したこと。非弱だった兄は、それで随分遅くなったようだ。結局、父と兄とは、日本に帰国するまで、会うことは無かった。なお、この時の資金として、父が最後迄秘蔵していた金時計を、隣の白系露人に3千円で売って作った。これだけは手放したくなく、数々の略奪にも隠し持っていたのに！

冬越しを前に、数え切れない程の災難に遭った日本人は、何らかの現金を得なければ生きていけない状態に追い詰められていた。そのための安易な方法は、街頭に出て僅かに残った家財を売って、幾ばくかの金を得ることだった。勿論ロシア軍支配下では、そんな危険なことは不可能であったが、八路軍支配に成って治安が幾らか安定し、それが可能に成った。我が家でも、父が日本から取り寄せた大量な日本煙草があったので、姉がそれを街頭で売ることに成った。在る日のこと、姉がバスケットに日本煙草を並べて売っていた時、一人の八路軍将校が、姉のバスケットを覗いて、チェリー(日本煙草の桜)を懐かしそうに眺めて、そして大事そうに買って行った。その顔は服装こそ八路軍将校だったが、紛れもなく日本人で、日本刀を下げていた。それでも祖国日本が懐かしいのだろう。多分このような人達の存在が、日本人に対して比較的に優しい対応に成ったのではないかと思う。

5) 引揚げ前の我が家最大の災難

月も変わって5月。5月は蒙古風の季節(日本にも飛来する黄砂埃！満州では一寸先も見えなくなる程)を終え、ハルビンの一番良い月である。しかし僕の家では今大変な事が起こっていた。と言うのは八路軍から、将校用の宿舎として、家の立ち退きを迫られて居たのである。しかし幾ら日本人が弱くても無理に追い出す訳には行かない。空かしたり脅かしたりして「うん」と、言わせようとしたが、母はそれに応じなかった。次は同じような条件の家を持つ、近所の佐藤さんにも同じ事を云って、余りに責められ脳溢血で死んでしまった。それにも懲りず、又母を呼び出し「足りないものがあつたらやるし、家も世話してや

るし、引越費用も出してやる、人手が足らなかつたら兵隊を貸してやる」と、もう如何しても出なければ成らないように仕向けられ、母はくらと目眩がして其処へひっくり返ってしまった。そこで付添いの塚根先生(同居して貰っていた僕の先生)が、「この奥さんはご主人が遠くにいる、何時も苦労しているので、もうこれ以上責めると死んでしまう。家の事は諦めてくれ。」と云うと「考えておこう」と言い、母を手当して家まで届けて来た。結局、若い八路軍将校を1名、我が家に同居させることで話は決着。しかも、この将校が実に良い人で、引揚げ迄仲良く暮らすことが出来た。時々、母が夕食を接待すると、彼も中華料理を作り、家族に振舞ってくれた。本業は料理人じゃないかと思う程美味だった。更に、まだ日本人に恨みを持つ中国人が多くおり、治安が若干安定したとは言え、略奪や嫌がらせは日常茶飯事だったが、八路軍将校の住宅に押し入る者など居らず、我が家はハルビン一安全な家になった。これでもし、ロシア軍や現在の中国、また旧日本軍だったら、問答無用で取り上げられるであろう。なお当時の我が家は、30代後半の母、女学生(現在の中学生)の姉、それと子供(僕)のひ弱な3人家族だったが、当時の母は奇跡的な頑張りを見せ、今考えても頭が下がる思いである。

6) アメリカの決定によって、在満日本人の引揚げが決まった

終戦直後の日本政府方針は、海外日本人に対し、海外定着を促すことを決定していた。理由は日本の力が枯渇し、多数の海外日本人を引き受ける余力がないと言うことであった。これに関し、2008/12/17 BS-103 NHK番組「葫蘆島～旧満州引き揚げ・運命」に明確に報道されている。(注 本章は、上記NHK番組を参照) こんな方針は、在満日本人の誰もが知らず、一日も早く日本に帰してくれと、願っていた。もし知って居たら、悲観して大量な自決者が出たかも知れない。この辺の情報は殆ど満州の日本人に与えられず、私も2008年迄知らなかった。即ち昭和20年から21年の1年間、満州の日本人は、日本政府から見捨てられ、敵地に滞在させられ(日本人は敵国人と扱い。八路軍にでも入らなきゃ?) 残酷な生活と過酷な冬越しを強要され、多数の非殺害者、餓死者、凍死者、自決者を出した。もう1年、冬越しが強制されたら、半分以上の日本人の命が奪われたかも知れない。

それから半年後、アメリカの方針で突然、満州在住の全日本人の早急な引揚げが決まった。理由は先述したように、旧日本軍や有力者の多くが、八路軍に投降したことによる共産軍強化の阻止である。既に国共戦争で八路軍が大幅に強化され、アメリカの支持する国府軍(当時の政府軍)が敗北しつつあった。それにより、昭和21年に成って引揚げが決定された。当時の満州の最大の港は大連であったが、大連はソ連の占領下にあり、ソ連は引揚げへの協力は一切拒否。それで、当時国府軍傘下に有った葫蘆島を用いることに成った(注 現在の葫蘆島は中国最大の軍港で外国人は一切シャットアウト)。

<以上、全3回の第1回分> 次回お楽しみに。

“野球における《女子選手》の系譜～報道から”

編集:工藤義夫(事務局)

◆メジャーリーグベースボール◆ 大谷翔平～投打二刀流

今年はWBCでの日本の3度目の優勝に始まり、メジャーでは二刀流の圧倒的な投打でMVP、ホームラン王はおろか、あるいは三冠王やサイヤング賞も?の勢いで、メジャーの長年の歴史において類をみない“GOAT”や“ユニコーン”となっている。



◆野球における女子選手の系譜◆ ★豪プロ野球初の女子二刀流スター★

エンゼルスの大谷翔平投手は投打二刀流で新たな歴史を切り拓いているが、豪州にも二刀流の女子の新星がいる。2023年8月の報道で、オーストラリアのプロ野球初の女子選手で18歳の「ジェネビーブ・ビーコム」がWBSC(女子野球ワールドカップ)で、対米戦にリアル二刀流で活躍しそのポテンシャルが絶賛された。身長188cmの左腕で球速は85マイル(135km)、打球速度は100マイル(160km)。“オーストラリアの大谷”と呼ばれるビーコムは「彼と比較されるなんて、最高の荣誉。彼は素晴らしく驚異的な選手。どんな意味でも、彼との比較で自分の名前が出るなんて。頭がぼーっとしてしまふ。最大の褒め言葉だと思う、信じられない」と興奮を隠さない。



MLBネットワークから「将来はメジャーリーグ(MLB)を目指しているの?」とおざなりの質問をした時も、ビーカムは「はい、メジャーリーガーになりたいです!」などと答えず、マスコット扱われるのを拒否しているようだった。「より高いレベルでプレーするというのは誰もが夢見ることだと思いますが、自分がどこまで行けるのか、見ていきたいですね」17歳の彼女の現実的目標は、高校卒業後の2023年に降に、米国の大学の野球部でプレーすること。誰もが想像するような「夢」ではなく、現実的な「目標」に向かって、彼女は絶好のスタートを切った。

それは単なる希望的観測ではない。今の米国社会が2020年のBlack Lives Matter(対黒人差別反対運動)が他の人種的、性的少数派への差別に反対する機運に拡大して以来「女性のチャンス拡大」という点においても「追い風」が吹いていて、その余波がMLBにもしっかり届いていると感じるからだ。

◆米国における女子選手の系譜◆ ★「ベーブ・ルースから三振を奪った」女性投手★

MLBの長い歴史の中で「女性投手」が誕生しそうになった記録が残っている。1931年、今も現存するマイナー球団チャタヌーガ・ルックアウトに、今のビーカムと同じ17歳で左腕投手であるヴァーン・ベアトリス(通称ジャッキー)・ミッチェルという女性がいた。彼女はヤンキースとのオープン戦に救援登板し、ベーブ・ルースと対戦している。

記録によると、ミッチェルは「ドロップ」と呼ばれる変化球(著者注:おそらく「昭和の時代」によく言った「縦のカブ」のことだと思われる)攻めで、二球の空振りを含む見逃し三振に打ち取ったという。↓ジャッキー・ミッチェル。



続くルー・ゲーリックも連続三振に切って取ったミッチェルは、後続に四球を与えて降板したそうだが、総立ちで拍手喝采した地元観客とは対照的に、試合後のルースから辛らつなコメントを送られている。

「男性が女性に野球をさせるとは思えない。なぜかって? 女性は脆すぎるし、毎日プレーしたら死んじゃうよ」



ベーブ・ルース

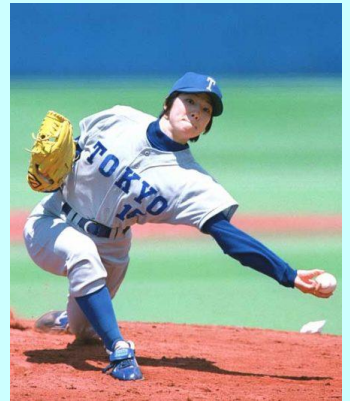
MLB史上(おそらく)最初の性差別が公然となったのは、その数日後だった。黒人選手のMLB参入を拒み続けたことで知られる初代コミッショナーのケネソー・マウンテン・ランディスが、「彼女にとって、野球は激しすぎる」として契約を無効にしたのだ。ミッチェルはその後、マスコットの的に登板するに留まり、その屈辱に耐え切れなくなって23歳で引退。数年後に始まった女子野球リーグの参加要請にも応じなかったという。

その後も Negroリーグや米独立リーグで女性選手が誕生した痕跡が残っており、近鉄バファローズの入団テストも受けた左腕アイル・ボーダーズ投手や、日米の独立リーグに所属した「ナックル姫」吉田えり投手など、注目された女性選手が何人も現われている。完全に独立した女性だけのリーグでプレーする選手は今でも多いが、そこで突出した実績を残せるなら、男性のリーグに挑戦したって良いはずだし、ビーカムのような左腕投手が、米国の大学野球で活躍し、ドラフト指名を受け、マイナーリーグでも活躍すれば、初代コミッショナーの歴史的裁定で「間違いだった」と、現コミッショナーのロブ・マンフレッドが謝罪することになるかも知れない。そういう意味では、日本の女子野球選手たちにも、ビーカムや、バルコベックが歩んだ道を選べるチャンスがあるのかも知れない。

◆日本における女子選手の系譜◆ ★東京六大学野球の女子選手 竹本 恵(東大・サウスポー)★

新潟高等学校から1999年、現役で東京六大学文科2類へ進学、野球部に入部。東京六大学野球連盟史上初の日本人女性選手となる。

左のアンダースローで、層の薄い東大では多少なりとも出番に恵まれた。同年秋季新人戦において初登板、2001年春季リーグ戦・対慶大1回戦(4月14日)で、日本人女性選手初出場となる登板を果たした(女性選手としての出場はジョディ・ハーラー(明大)に次いで2人目)。また、同年5月28日の対明大2回戦では小林千紘との女性同士の先発が実現し、注目を集めた。リーグ戦通算成績は4試合登板、0勝1敗、防御率9.00。



◆竹本恵プロフィール◆ 青山107期卒。

千葉県生まれ、仙台一女高から、新潟高校3年に編入し卒業。東大卒後は、バイクで3年世界周遊。日経新聞勤務後、バルセロナのESADEビジネススクールへ。



一筆啓上

◆2023年度 ~ 上期分

* R4.4.1~R5.3.31(上期) 葉書/e-mail /会費振込用紙等に記載のメッセージ等*

61回・長沼雄峰/同期の卒業生は320余名、ただ今、東京青山同窓会員は12名です。残りの方々はどうか、男の平均寿命は81.4歳、今年88歳米寿を迎える顔が目に浮かぶようです。どうしているか? 今年は女子の方が多いですね。会報見て驚きました。当初初めて女子が入学し、団みに7名でした。翌年転校生として入ってきたのを10名くらいだったです。
62回・渡辺千里/焼たて天井の旧旧体育館でバスケットボールの練習を思い出します。後輩の目標のますますのご活躍を嬉しく思い母校の発展を祈ります。会報72号届きました。ありがとうございます。いつも楽しい編集で一気に若返ります。7月8日の総会出席しますのでよろしくお願い致します。
67回・三浦 浩/転居通知
68回・上村嶺子/「時代を切り拓いた女性達」を興味深く見ました。中国とある山口源子さん、私の母がいろいろと映画の撮影しているのを見た話してました。昭和11年頃とても美しく話してました。私の両親は昭和9年~28年まで中国にいました。
68回・渡邊康彦/住所不明
70回・猪口 孝/工藤様 平素より大変お世話になっております。総会&歓迎会開催のお知らせにつきまして、参加させて頂きましてのぞくお願い致します。
71回・清志 新一と共に「まらち」を大合唱することを楽しみにしています。
工藤 事務局長様 お疲れ様。漸く4年ぶりの東京青山同窓会が開催されますね。首を長くして待っていましたので、必ず参加致します。その前の幹事会がありましたら、ご連絡をお願い致します。東京青山楽道倶楽部も4月24日(吉池)で開催。
74回・解良和郎/住所不明
74回・土屋彰義/幹事会は参加、総会は欠席です。
74回・大石 隆/総会欠席。昨年12月新潟に帰省した際、佐藤信秋君がテープカットする写真を新潟日報で見て、津川の方で新しい道が開通したとの由。
74回・高見 浩/いつも同窓会のお仕事ご苦労様です。今回ご案内ですが、シトルでの取材で残念ながら出席できません。今後よろしくお願ひいたします。
74回・若林源基/工藤さま 待っていました!! 総会もちろん参加です。一次席
76回・長北 学/よむコロ窓も取ってまいりました。久しぶりに同窓会の皆様にお会いできるのを楽しみに出席を希望します。よろしくお願ひいたします。
77回・佐藤 茂/出席予定で、お願ひ致します。
79回・上藤大/出席致します。よろしくお願ひします。なお、会費は事前に振込とさせていただきます。当日の現金支払不可です。
79回・富山浩司/ご案内、ありがとうございます。参加でお願いします。
82回・田部朋子/東京青山、再始動!参加します!宜しくお願いいたします。
82回・松本 洋/総会に参加したいと思っております。
82回・佐野智子/既予定あり、残念ながら欠席です。盛会をお祈りします。
84回・飯塚雅士/工藤様へ案内ありでございます。是非参加させていただきます。
84回・小島秀子/同窓会総会参加させていただきます。よろしくお願ひします。
84回・島津 孝/体調崩して半年休職してましたが、先月から復職しました。参加予定しています。以上、宜しくお願いいたします。
84回・高橋敏朗/04期の野球部主将。1度も参加したことがないですが、希望。
84回・野口俊介/ご無沙汰です。4年ぶりの開催!待ちに待って参りました。喜んで参加いたしますので、よろしくお願ひ申し上げます。
84回・野村大/幹事役お疲れ様です。総会/歓迎会に参加致します。現在下記のとおり2足の草鞋状態です。(新会社役員が本業) 日揮グローバル株式会社|原子力エネルギー本部 |顧問
84回・星野紹英/総会、参加します。
88回・今井信一郎/出席を予定します。宜しくお願い致します。
89回・山田敏昭/お疲れ様です。今年こそ、開催ですね。おめでとうござります。私事、3/23付で東京に戻ることになりました。今後とも宜しくお願い致します。個人的には、あと1年福岡にいたかったです。総会で、社任によりと予定が分かりますが、出来るだけ参加したいと思っております。
89回・星井利穂/上京の予定が参りましたので、総会に参加させていただきます。
90回・池田美弥子/久しぶりの開催、嬉しいですが、ちよどその日に予定が入ってしまい、欠席です。また、次回お知らせいたします。
90回・藤原 彰/ご苦勞御座います。出席させていただきます。
90回・坪井俊樹/出席予定で、宜しくお願い致します。
90回・渡邊修也/いよいよ総会再開ですね。90期のメンバーも具体的に動きはじめのに行きませぬ。宜しくお願い致します。
92回・近藤善龍(新潟高校教師)/学校から、小川校長と、旧3学年部長として私近藤と担任の荒木美恵子と渡邊聖也(たかし)が参加させていただきます。
93回・遊佐浩子/東京支部へ入会可能したらお願ひいたします。その前の活動も:物理部、茶道部、陸上競技部、物理部アマチュア無線部のグループラインに活きました。7月の総会には、私も入会参加希望者がおりましたのでご連絡です。
93回・伊藤一朗/東京青山同窓会入会希望です。7月の総会にも出席希望です。
93回・重藤泰彦/友人へ総会に参加されました。よろしくお願ひします。
93回・村松 浩/住所不明
93回・丸山 寛/今春新潟に帰った。残念ながら総会には欠席します。
工藤 事務局長様 お疲れ様です。今年こそ、4年ぶりの東京青山同窓会が開催されます。首を長くして待っていましたので、必ず参加致します。その前の幹事会がありましたら、ご連絡をお願い致します。東京青山楽道倶楽部も4月24日(吉池)で開催予定です。
94回・藤原直樹/ごぶさたしております。出席予定。よろしくお願ひいたします。
94回・野崎雅也/いつも大変お世話になっております! またご案内ありがとうございます。参加できるよう予定調整いたします。
94回・吉原直毅/出席を希望いたします。どうぞよろしくお願い致します。
101回・星野智樹/総会新人歓迎会に参加させていただきます。
101回・後藤 卓/ご無沙汰しています。盛会参加致したくよろしくお願い致します。
102回・関谷直也/東大大学院情報学総合防災情報研究センター准教授です。新潟高校生の夏研修で東大での担当になりました。総会、参加いたします。
104回・佐藤 晃/案内ありでございます。参加費振込みです。
106回・三田和弘/同窓会HPで総会の案内を拝見。参加を考えております。
110回・柳邊孝子/所用にて欠席します。
115回・林 典子/住所不明
117回・水間有紀/住所不明
117回・山本直子/工藤さまお世話になっております。いつもお疲れ様です。ご連絡ありがとうございます。以前お電話でお話した、妹と一緒に参加を考えています。128回の日田製(わたり)より、どうぞよろしくお願い致します。
119回・境 孝哉/総会・新人歓迎会の開催おめでとうございます。残念ながら7月8日は、私のコンサー(東京藝術大学後援学術部同窓会カンサス・コンサー)と重なってしまい、欠席ですが、盛会を心より祈念いたしております。→出席へ。
120回・宮本真理子/総会も遅れそうです。次の火曜会(10月?でしようか)にはぜひと思っております。
121回・南場未帆/総会参加希望です。
124回・植木美帆/退会希望。
128回・真貝香子/総会、並い!新人歓迎会の参加費を振り込みました。姉は事情により参加できなくなり、別の友人3名で参加させていただいた存じます。
128回・須山志乃/総会出席します。
128回・山田健二/転居通知。予定が含めば総会に参加いたします。よろしくお願ひいたします。
128回・星 尊也/東大工学部4年の星と申します。青山会への入会希望及び、東京緑会への参加希望でご連絡させていただきました。お手数おかけ致しますが、ご対応のほどよろしくお願い致します。同期の山田健二君からの紹介。

◆年会費納入者一覧;R5.4.1~R5.9.30<<令和5年度上期>>

- 56回(4名) 赤坂長弥 井上菊雄 加藤勝則 皆川正男
59回(4名) 梅沢貞雄 岡田 久 高橋晴夫 納谷喜郎
60回(4名) 金山常吉 杉野剛博 中田 亨 早川貞夫
61回(8名) 安宅久憲 草間光俊 小林孝司 小林元雄 田中宣也 徳田晋也 長沼雄峰 村山 健
62回(4名) 石黒 恒 内山隆之 近藤哲朗 渡辺千里
63回(1名) 浅野康一
64回(6名) 植村新吾 清水水良 須田峰治 高橋正幸 星 満 樹 湯晴夫
65回(6名) 安藤宣清 五十嵐 徹 濱田庄市 村木利夫 山本和親 横山修二
66回(3名) 石山芳春 榎月喜一 吉田大左工門
67回(8名) 石井幹男 岡崎 功 北村 敏一 佐々木邦夫 清水雄伍 鶴賀政行 寺井 宏 三堀 浩
68(5回) 上村嶺子 重野康人 竹石 肇 濱田庄司 渡邊千麿
69回(4名) 青木利祐 佐藤隆晴 高木敏之 永井晴美
70回(3名) 池田好正 猪口 孝 渡辺允雄
71回(5名) 柄沢 卓 小嶋修一 高橋 稔 堀 清忠 松田裕子
72回(9名) 小川省三 小林正昭 近藤 正 齊藤俊正 島村礼子 菅又 滋 富田由季 中地光子 古山恒夫
73回(2名) 雨宮則夫 飯村 修
74回(29名) 池田 裕 池田正行 石井 明 和泉 潤 薄田禎子 大田正孝 大滝 均 岡村康生 川田澄子 工藤義夫 小林淳子 齋藤一幸 坂井 靖 佐藤俊栄 佐藤信秋 島津満里子 関川修一 高橋 保 高橋信郎 田村栄作 土屋彰義 中村義一 西田百合子 沼田 清 橋本昭一郎 原 信一 古海正子 丸山直人 渡部終五 75回(11名) 有箇順子 五十嵐 正 笠井 忠 白鳥十三 鈴木正夫 高木久夫 橋爪博美 服部 昭 馬場俊博 藤井建一 藤縄利勝
76回(29名) 青山耕一 朝妻 厚 阿部緑生 阿部直一 天野直二 岩橋俊朗
76回(名) 大竹力三 尾張明美 加野裕資 賀谷彰夫 木下正仁 後藤徳広 小松澄子 小宮山信男 近藤壽邦 鈴木茂夫 鈴木隆雄 田中邦直 太原まゆみ 中川英二 長北 学 西沢芳樹 長谷川邦良 八田 誠 林 謙 細谷洋一 湊 勝 湯本雅恵 渡辺 拓
77回(5名) 北村一雄 佐藤 茂 時岡高志 長谷川 実 山田民夫
78回(7名) 太田秀樹 斎藤庫之丞 志藤洋子 須田幸子 肥田博子 吉澤哲彦 村田光男
79回(6名) 内山 修 河 正子 川上康夫 小池康義 鳥羽正尚 富山浩司
80回(5名) 大霧博之 長 正子 川名正敏 小林亮介 清水洋一
81回(4名) 荒川 洋 越野昌芳 成海孝二 山田 徹
82回(5名) 日下部朋子 小亦 斉 西山浩子 福嶋 元 宮村伸一
83回(5名) 浅間芳朗 遠藤光郎 木下康司 佐藤 扶 高山佳郎
84回(9名) 飯塚雅士 島津 孝 新宮和生
84回(名) 田崎正巳 田中昌夫 野口俊介 嶋 昌樹 星野都夫 鈴木立也
85回(5名) 今井善重 奥村 甚 塩田拓哉 田村 誠 森 大輔
86回(3名) 斎藤 健 宮腰重三郎 吉井正行
87回(2名) 清水志明 南 正人
88回(2名) 今井信一郎 大越健介
89回(2名) 瀧川久幸 山田敏昭
90回(12名) 池田美弥子 勝山達志 木村和人 小林 到 小林美奈子 斎藤 彰 斎藤結花 白川 裕 坪井俊樹 原 茂樹 森 豊 渡辺修也
91回(1名) 長田 充
93回(3名) 伊藤 剛志 土屋泰彦
94回(3名) 野崎雅恵 藤沢健司 吉原直毅
95回(1名) 遊佐浩子*2
99回(2名) 若和田俊裕 町田清彰
100回(2名) 小林一大 吉原貴之
101回(3名) 折笠智則 折笠由貴子 星野智則
102回(1名) 関谷直也
103回(1名) 鷲尾英一郎
108回(1名) 山本直子
110回(1名) 酒井優理子
115回(2名) 岡村晋之祐 小甲洋輔

◆その他;複数年前納者(合計除外)
・74回 岡村康生 (5年分~2027)
・74回 青海 深 (5年分~2024)
・74回 川田澄子 (5年分~2027)
・84回 小島秀子 (3年分~2023)
・84回 星野紹英 (25年分~2045)
・84回 野口俊介 退会・5年分
◆ご寄付
・80回 長 正子 (3千円)

◆会員ご計報◆

(敬称略)
R4.4 ~ R5.9月までに
事務局で把握した方々です。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

Table with 3 columns: 卒回, ご氏名, 逝去日. Rows include 74 白田 雄二 (2022.?), 82 星野憲昭 (2023.8.25), 87 松田幸治 (2023.?)



◆2023年度予算 & 上期中間決算

Table with 4 columns: 摘要, 令和5年度予算 (R5.4.1~R6.3.31), 同左中間決算 (R5.4.1~R5.8.31), 備考 (令和5年度分). Rows include 期首現預金残高, 収入 (年会費, 会費), 支出 (会報通信費, 事務用品), 期末現預金残高.

◆集計 (~2023.8.31)
納付者数計 245名
納付額計 561千円
目標 400名 80万円
◆本同窓会は皆様の「年会費」にて運営しています。納付のご協力をよろしくお願い致します◆



東京◆歴代会長◆



<参考> 斎藤英四郎/36名譽会長のみ 1987~2002



初代:山内保次 7期 2代:早山洪二 28期 3代:山添直 30期 4代:木村逸郎 30期 5代:山崎重三 34期 6代:南学正時 40期 7代:斎藤伸延 44期 8代:栗林貞一 59期 9代:猪口孝 70期 10代:佐藤信秋 74期

★東京青山同窓会 ヒストリア(総会・会報・役員など) ... 1965=S40年 東京同窓会発足～現在...★

Main table with columns for year, issue number, president, vice president, secretary, treasurer, and activities. Includes a sidebar for '東京会報12号から2号' and a callout box for '母校100周年'.

“あの歌の由来 ② 「恋人よ」・・・ある青山の人に”

編集:工藤義夫(事務局)

～“あの歌”ができるまで～

《 恋人よ 》

2023.7 再構成

恋人よ ♪ ～1980年誕生

五輪真弓 ～ 作詞・作曲・唄

枯葉散る夕暮れは
 来る日の寒さをものがたり
 雨に濡れたベンチには
 愛をささやく歌もない
恋人よ そばにいて
 こごえる私の そばにいてよ
 そしてひとこと この別れ話が
 冗談だよと 笑ってほしい

砂利路を駆け足で
 マラソン人が行き過ぎる
 まるで忘却のぞむように
 止まる私を誘っている
恋人よ さようなら
 季節はめぐってくるけど
 あの日の二人 宵の流れ星
 光っては消える 無情の夢よ

恋人よ そばにいて
 こごえる私の そばにいてよ
 そしてひとこと この別れ話が
 冗談だよと 笑ってほしい



◆ 2023. 8. 27(日) 21-22 時
 BS日本TVで放送 ◆

～そのとき歌は流れた
 時代を彩った昭和の名曲～

歌の誕生 ～ 1980年

◆木田高介 ～ ◆

この曲は、五輪がデビューした当時のプロデューサーで、1980年5月に交通事故死した木田高介(本名:桂 重高/青山75期相当;2年時転校。31歳歿)のことを思っ書上げた曲でもある。

1980年6月録音、同8月リリース。

- ・第22回日本レコード大賞・金賞
- ・第9回FNS歌謡祭・最優秀歌唱賞

◆木田高介・追悼コンサート◆

～ 東京会報64号に既掲載 ～ より
 <1980年6月・追悼コンサート>

山中湖での交通事故死から約1ヶ月後の1980年6月29日、日比谷野外音楽堂で「木田高介・阿部晴彦追悼コンサート」が開かれ、1万人近くファンが集まった。この日は明け方に地震があり、一日中雨模様であった。

午後2時開場、3時開演、午後8時終了。すべてチャリティー、売り上げは二家族の遺族に送られた。

参加ミュージシャン:ザ・ナターシャ・セブン(高石ともや・坂庭・城田と石川)、オフコース(小田和正・鈴木・大間・清水・松尾)、かぐや姫(南こうせつ・伊勢正三・山田パンダ)、風(伊勢・大久保)、五つの赤い風船(西岡たかし・長野・東・藤原秀子)、吉田拓郎、小室等、遠藤賢司、斉藤哲夫、下田逸郎、かまやつひろし、イルカ、リリィ、はしだのりひこ、北山修、ダ・カーポ、山本コウタロー、五輪真弓、加川良、沢田聖子、ダウン・タウン・ファイティング・ブギウギ・バンド(坂庭の弟も出演)、金子マリとバックスパニー、チャー、スピードウェイ、スクランブル・エッグ、上条恒彦、倍賞千恵子、吉川忠英、瀬尾一三、岡本おさみ、喜多条忠。...

曲は;喜多条司会、ダ・カーポ「結婚するって本当ですか」で始まり、赤い風船を中心に「遠い世界に」で幕を閉じた。ここまで揃った顔ぶれは多分後にも先にも無い。また宇崎竜童が何度も写真を撮っていた。

印象的なのは北山修が泣きながら「帰ってきたヨッパライ」、オフコースが無伴奏で「いつもいつも」、吉田拓郎が「アジアの片隅で」を30分近く歌ったことなど...

木田といえば、「神田川」「なごり雪」「出発の歌」「ルームライト」「魔法の黄色い靴」「私は泣いてます」「結婚するって本当ですか」などの編曲が有名だが、ラスト全員で歌ったのは木田とは無縁の「遠い世界に」。

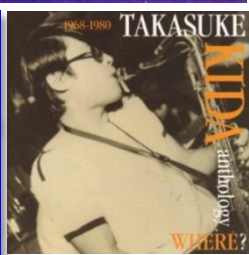
◆ エピソード ～ 木田高介の葬儀に参列した五輪真弓が木田の妻の悲嘆ぶりを目の当たりにしそれを基にして作った楽曲が彼女の代表作となる「恋人よ」であった。◆

★ 木田は、五輪のデビュー時からプロデューサーとして家族ぐるみで可愛がり支えた。五輪は究極の別れの歌を作りたいと思っていた。その矢先の衝撃の訃報であった。...★



きた たかすけ (1949～
木田高介 1980)
 31歳歿

青山75期(→和光高校卒)、東京藝大打楽器科中退、→ジャックス&ナターシャセブン島で演奏、ドラム、サックス、フルード、ピアノ等。～「出発の歌」「神田川」「結婚するって本当ですか」等編曲。アレンジ/プロデューサー



楽器は何でも天才!
 ↓ 高校時代は軽音楽部。

ジョリー・チャップスの練習風景 ; 1963～1964年頃 新潟高校・体育館内の部室にて



“恋人よ” ～五輪真弓

日比谷 野外音楽堂

ミュージシャン・木田高介



恋人よ そばにいて



日比谷野外大音楽堂 (野音・・・やおん)

